正大・治明・末幕

回顧八十年史

第十七輯

東京・東洋文化協會・發行

◎口繪解說◎

◎『御卽位式・鳳輦東京御發輦』

大正天皇の御卽位式は大正四年十一月十日と御發表あり、依って十一月六日午前六時十五分宮城御出門、賢所御羽車に扈從し給ひて京都に向け御發輦あらせらる。六頭曳きの特別儀裝の美しき御馬車に召され鳳輦の金色燦然として朝陽に映ずるところ、御鹵簿は肅々として淨砂を踏み、馬場先門なる東京市の大奉祝門を通過、東京驛に向はせらる、眞に一幅の壯麗極りなき大繪卷であった。

◎『御卽位式に御參列の各皇族殿下』

御卽位式に御參列の爲京都に御入洛の各皇族殿下である。右より。前列、竹田宮妃、朝香宮妃、伏見宮博恭王妃、閑院宮妃、東伏見宮妃、梨本宮妃及び北白川宮妃。第二列、東伏見宮、伏見宮貞愛親王、閑院宮、伏見宮博恭王、第三列、東久邇宮、梨本宮、久邇宮、朝香宮。第四列、北白川宮、竹田宮、久邇宮多嘉王の各殿下。

幕末 明治 大正 回顧八十年史 第十七輯 目次

口絵（原色版）

『御卽位式・鳳輦東京御發輦』……
『御卽位式に御參列の各皇族殿下』……

玻璃版

主基齋田の御田植式……四一五
主基齋田御田植式、主基齋田の御田植式々場、田植の早乙女。
悠紀齋田の御田植式……四一六
悠紀齋田御田植式、悠紀齋田御田植式の田植踊、御田植終了奉告式。
齋田の刈入れと御用品の調製……四一七
悠紀齋田の稻刈、悠紀齋田收納舍內の籾曳き及び米磨ぎ、悠紀齋田の供納米の撰米、賀茂神社內御水井舍、大饗宴會場用の羽二重御帷幔の謹製。
大正天皇御卽位式(一)……四一八
近衞騎兵の先驅、賢所御羽車の進御、鳳輦奉祝門通御、馬場先門附近の奉送者。
大正天皇御卽位式(二)……四一九
賢所御羽車京都烏丸通進御、鳳輦堺町御門內に進御、烏丸通の拜觀者の堵列。
大正天皇御卽位式(三)……四二〇
承明門より見たる紫宸殿、紫宸殿上の南廂西端より謹寫せる高御座、御登極の高御座、皇后宮の御帳臺、衣冠束帶にて壽詞を奏せる大隈首相及び夫人。
大正天皇御卽位式(四)……四二一
大正四年十一月十六日及び十七日の二條離宮內の方四十一間の大饗宴場、二條離宮舞樂殿に於ける五節舞、上野奉祝會に行幸の大正天皇、上野公園に於ける東京市奉祝會、東京市奉祝會式場に於ける名士。
御卽位式御調度品……四二二
青楷衣、御用の各種幡、皇族大禮使の佩刀、石帶、御太緒、御履、皇后陛下の御檜扇及び釵子。
大禮特別大觀兵式……四二三
青山練兵場に於ける大禮特別大觀兵式、步兵の分列行進。
大禮特別大觀艦式……四二四
大禮特別大觀艦式、參列艦の皇禮砲發射。
米國曲乘飛行家アート・スミスの來朝……四二五
米國曲乘飛行家アート・スミス、飛行中のスミスと其愛機、スミスの夜間宙返り飛行、スミス歡迎會、低空同乘飛行、スミス氏に恩賜金傳達、大正五年六月十六日札幌にて墜落せし當時の寫眞。
來朝せる外人飛行家と民間飛行界……四二六
米國曲乘飛行家チャーレス・エフ・ナイルスと大正四年十二月十一日青山練兵場に於ける得意の宙返へり飛行、磯部海軍少佐のルンブラー飛行機、荻田氏のモーラヌ單葉『剪風號』、米國飛行家チヤンピオン、スチンソン孃、ルース・ローフ夫人、高左右隆之の高左右式複葉機、坂本壽一の坂本式複葉機、東京大阪間郵便飛行一着賞者佐藤章と愛機。
李王殿下の御來朝……四二七

御來朝の李王殿下、李王殿下の鹽山御出發、李王殿下の御參內。……四二八
裕仁親王の立太子禮……立太子禮當日の迪宮裕仁親王殿下、立太子禮當日の馬場先門附近。
奠都五十年祭……上野公園東京市奉祝式々場に臨御あらせられたる大正天皇及び皇后陛下、上野祝賀式々場に向はせ給ふ大正天皇　東京市大祝宴、東京驛前の大名行列。……四二九
奠都五十年奉祝博覽會……奠都五十年奉祝博覽會全景、第一參考館、ジオラマ『草津宿行在所』、ジオラマ『東海道芝生村外人拜觀』。……四三〇
第三回東極オリンピック大會(一)……大正六年五月八日芝浦に於ける第三回極東オリンピック大會入場式と名譽會長大隈伯の開會の辭、五月九日十哩短縮マラソンの出發、五月十一日支那對ヒリツピン排球本競技、五月十二日の二百二十ヤード水泳決勝、五月十二日二十五哩マラソン。……四三一
第三回極東オリンピック大會(二)……百二十ヤード・ハイ・ハードル決勝、槍投一等齋藤兼吉、二十五哩マラソン一着橋本源吉、水上二百二十ヤード及び八百八十ヤード一着內田正保、走高飛一等袁慶祥、テニス優勝熊谷一彌、一哩リレー一着多久儀四郎、砲丸投げ一等アルバレス・カバニラ。……四三二
コンノート殿下の御來朝……東京驛前の歡迎門と奉迎の市民、御參內のコンノート殿下。……四三三
米騷動(一)京阪神に於ける暴動……大正七年八月十二日京都市公設外米廉賣の廣告、八月十二日夜深草歩兵第三十八聯隊の京都市中警戒、八月十二日燒拂はれたる神戸鈴木商店、八月十二日名古屋泥江橋交番暴徒の爲に破壞さる、八月十三日京都下京區一ノ橋小學校に於ける外米廉賣、八月十三日午後十一時暴徒の爲に燒打されたる岡山精米會社、八月十一日夜大阪米騷動に出動せる在鄕軍人團の武裝。……四三四
米騷動(二)東京市の恩賜デー……大正七年八月十三日東京日比谷公園內音樂堂附近の警戒、恩賜の廉賣券、米券配付を監督しつゝある田尻市長、白米巡廻廉賣、東京府より献上せる外米及び朝鮮米。……四三五
名士のおもかげ……板垣退助、大鳥圭介、品川彌二郎、高崎正風、森有禮、林權助、大浦兼武、芳川顯正、三浦梧樓、佐々木高行、福羽美靜、伊東巳代治、清浦奎吾、河野敏鎌、後藤新平。……四三六
醫學界の名士と女流教育家……緒方洪庵、橋本綱常、長谷川泰、長與專齋、石黑忠悳、佐藤進、青山胤通、入澤達吉、高峰讓吉、北里柴三郎、スクリパ、ベルツ、稅所敦子、奥村五百子、下田歌子、棚橋絢子、山脇房子、嘉悅孝子。……四三七
大正初年の相撲界……第一回學生相撲、常陸山引退相撲三横綱の土俵入、鳳の土俵入、大錦の土俵入、東京相撲の大阪乘込み。……四三八
宮城前の觀兵式・大隈侯の文士招待……宮城前の觀兵式、電氣博覽會、大隈侯の文士招待、古式蹴鞠の復活。……四三九
歌劇の全盛時代……寶塚歌劇團『雛祭』、バンドマン歌劇團の來朝、觀音劇場喜歌劇『マスコット』、家庭踊。……四四〇

記事

大正三年
東京驛の開通……明治神宮御造營費確定……明治天皇紀編修。

大正四年
大正天皇御卽位大禮……恩赦の詔書……贈位と敍位敍勳……養老賑恤……東京市の奉祝……各地方の賜饌と奉祝……大觀兵式と大觀艦式……濱職事件と內閣改造。

大正五年
露國大公來朝・首相襲撃さる……寺內內閣組織さる……立太子禮御擧行。

大正六年
皇后宮奈良女高師へ御歌を賜ふ……孝明天皇五十年御式年祭……不信任案と衆議院解散……軍艦筑波の爆沈……極東選手權競技大會……日米共同宣言。

御即位式・鳳輦東京御發輦

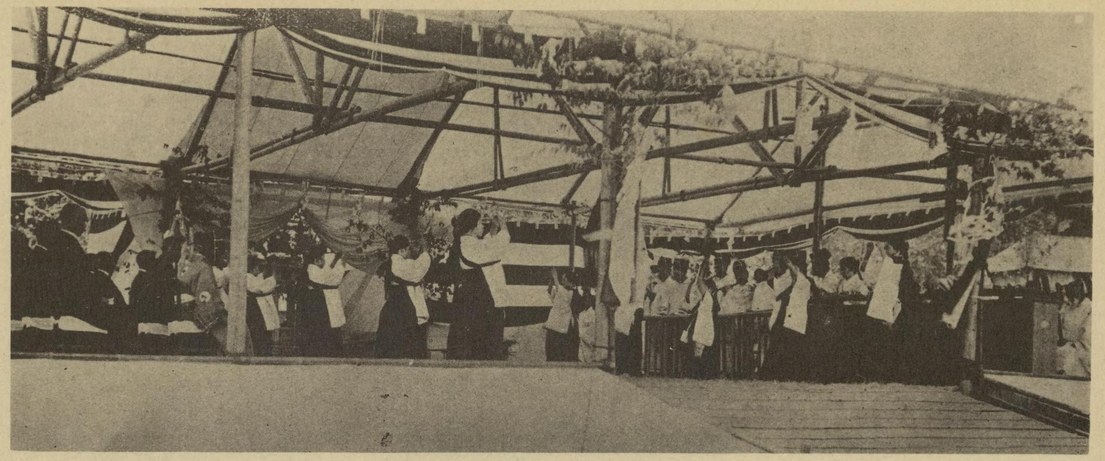
大正四年十一月六日午前六時十五分皇天正大は皇天正式位即御所賢所御羽御車に從はせ給ひて京都に向け宮城御發輦あらせられる。折柄曉霧漸く薄れ行き東の空に旭日輝き朝光に鳳輦の金色燦然たる華麗なる御車發輦の儀式は正午十二時

御即位式に御參列の皇族各殿下

大正天皇御即位式に御參列の爲京都に御入洛の各皇族殿下は、列前。右より。妃宮田竹、妃宮香朝、妃宮見伏王恭博、妃宮院閑、妃宮見伏東、妃宮本梨、妃宮川白北及び妃宮川白北、列二第。

東久邇宮、宮本梨、宮見伏王恭博、宮院閑、宮見伏王親愛貞、宮見伏東、列三第。宮香朝、宮田竹、宮川白北、列四第。宮久邇宮多嘉王の各殿下。

主基齋田の御田植式



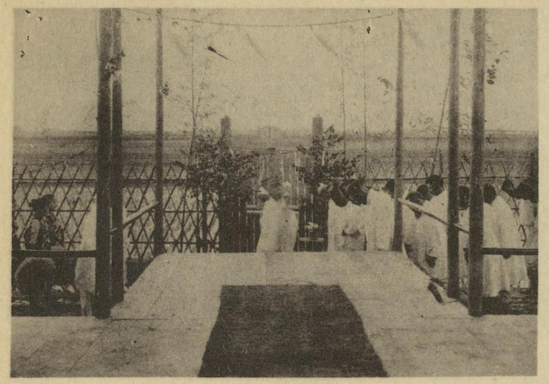
主基齋田の御田植式々場。大正四年五月二十七日午前十時、香川縣綾歌郡
山田村齋田南側式場の有樣

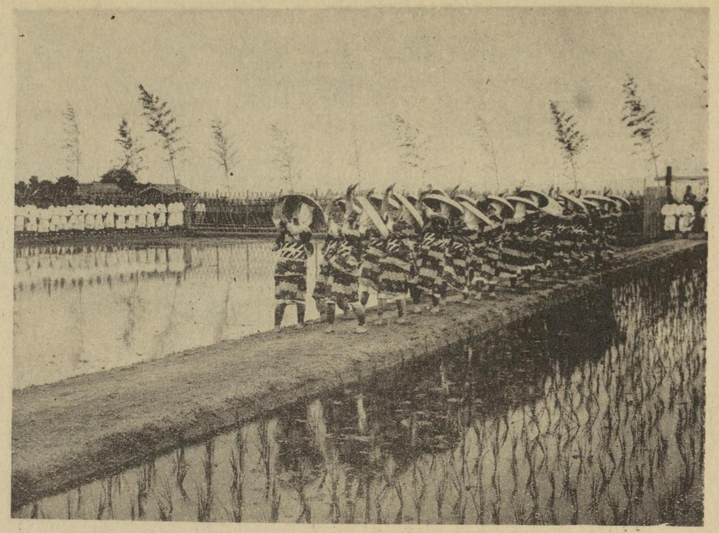
下、主基齋田御田植式（大正四年五月二十七日）

田植の早乙女
胖脚袴の緋の袖に長色藍濃綿木岡

齋田點定の結果、主基齋田は香川縣綾歌郡山田村岩瀬辰三郎所有の田と決定せられ大正四年五月二十七日御田植式あり、二十五人の早乙女が三反五畝二十歩に新作の御田植歌の節區
白く唄ひつゝ挿秧したが此日北盛儀を見んとて近郊より集るもの實に七萬人であつた。

悠紀齋田の御田植式





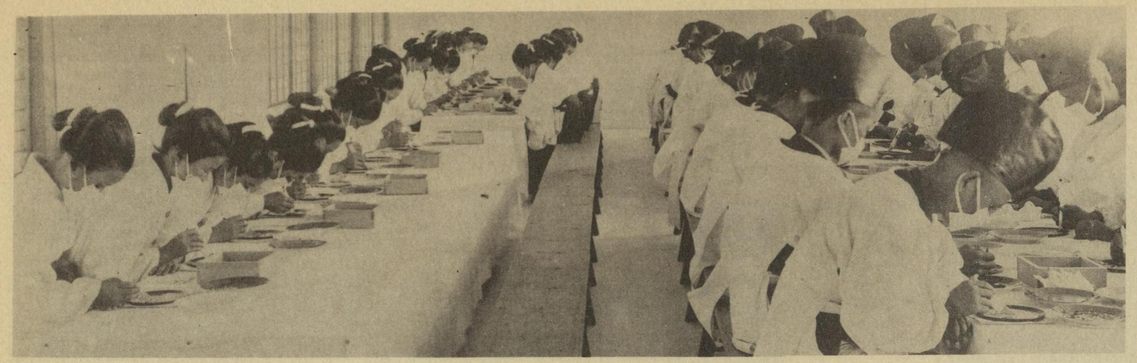
下、悠紀齋田植式
大正四年六月五日午正愛知縣碧海郡六ツ美村大字中島ノ上、早川定之助所有の田に行はせられたる御植式。

上、御田植終了奉告式（大正四年六月七日）

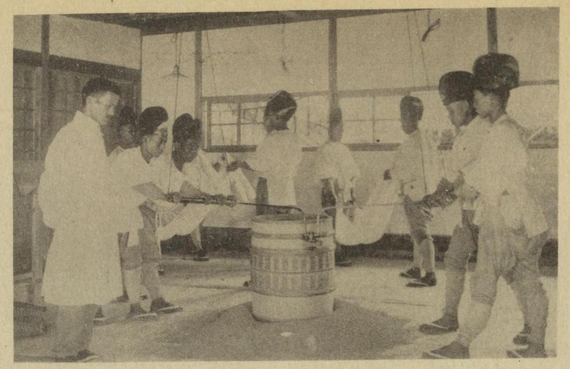
上、悠紀齋田御田植式の田植踏（大正四年六月五日）

悠紀齋田は愛知縣碧海郡六ツ美村大字中島ノ上、早川定之助所有の田と御點定あり大正四年六月五日午正御田植式を行ひ、十九名の早乙女と二十九名の奉耕者とが太鼓の音と田植歌の唄聲に合はせて齋田に御植したのである。

齋田の刈入れと御用品の調製



悠紀齋田の供納米（大四年十月八日）



悠紀齋田收納舍内の籾蒸き及び米磨ぎ。

右上、賀茂神社内御水井舍（おものゐや）黒酒、白酒御醸造の水を汲む井戸である。

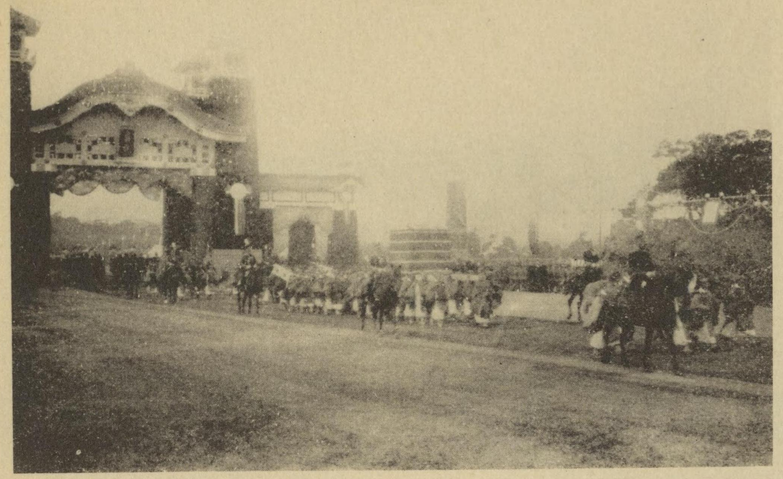
上、大饗宴會場用の羽二重御幡帽の調製（京都初音尋常小學校にて）

悠紀齋田の稻刈（大正四年九月三十日）

主基、悠紀兩齋田の稻は去る九月三十日大正天皇はじめて田に出ましまして刈入れ式を行ひ、京都上賀茂神社内御水井舍の井水を取つて黒酒（くろき）白酒（しろき）を醸造し、納めて御大饗の用に供し、籾蒸し、白米磨ぎ、蒸し、搗き、篩ひ、櫃に納め、封印して、悠紀齋田の稻刈入れ式を行ひ、刈り取つた稻は、直ちに脱穀

大正天皇御即位式（一）

右、近衛騎兵の先口



左、賢所御羽車の進御

右、皇靈奉祝門通御

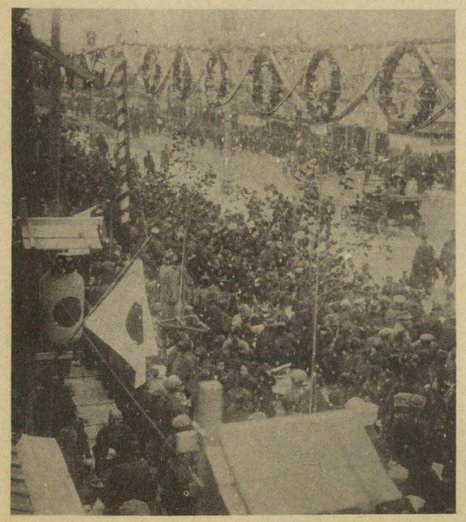
左、馬場先門附近の奉送者

大正四年十一月六日大正天皇は京都に向け東京を御發遊ばされる。午前三時半賢所の御移御あり午前六時、六頭立の特別裝飾馬車に召されて賢所羽車に從はせ給ひて宮城を出でさせ給ふ。曉霧漸く薄れ行きて旭日東天に登り朝光風景に照り映えて金色燦然たる最壯麗なる御車、美々しき馬裝備仗隊の彩旗翻翻たる、眞に一幅の大繪巻であつた。

而して午前七時皇靈奉祝の殿々たる聲に從ひ京都へ向け東京驛を御發車遊ばされた。

大正天皇御即位式（二）

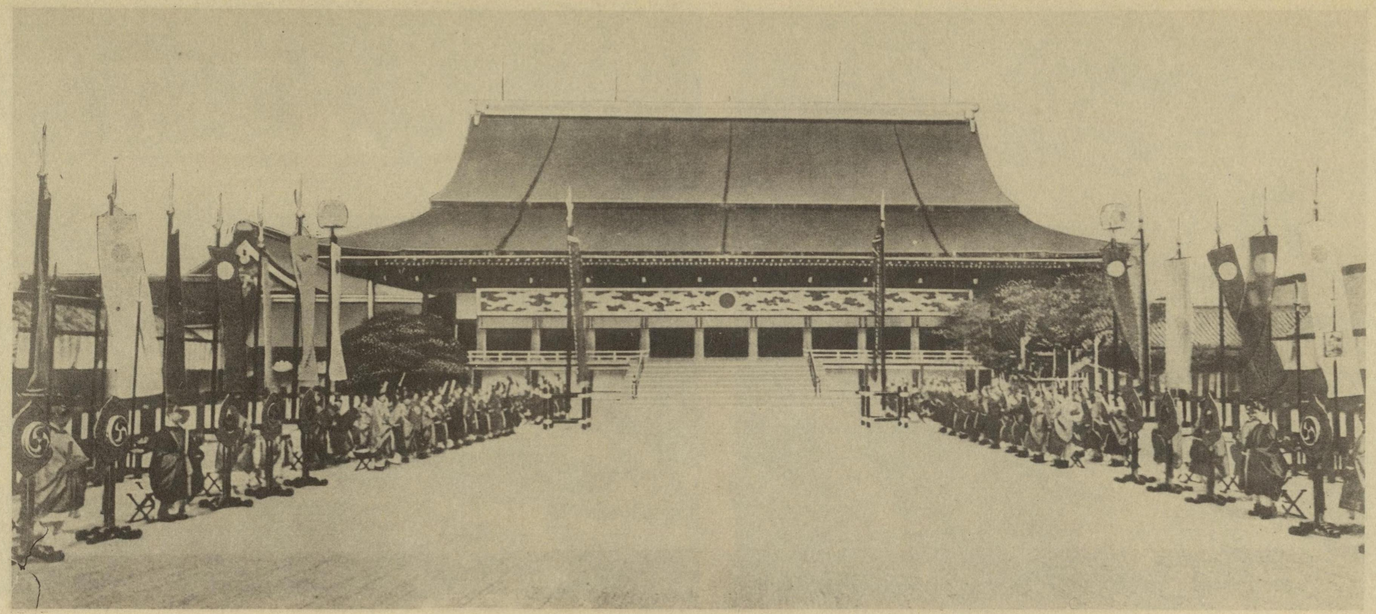
上、風聲堺町御門内に進御
下、烏丸通の拜觀者の堵列



御進通丸烏都京東羽御所賢
（大正四年十一月七日午後二時）

大正四年十一月六日東京御發輦あらせられる大正天皇は同日名古屋離宮に御一泊あり、翌七日午前九時五十分名古屋御發車、同午後一時五十分京都驛御着、直に京都皇居に入らせられ、午後三時二十分所賢を奉じて建禮門より入り賢所に拜殿興殿に至り波御の御儀式を行はせられが此日京都全市には悉く彩旗に飾へりて挙祝氣分横溢し歡喜若若諸に市全都京でも市全は滿ち加がく賑ひであつた。

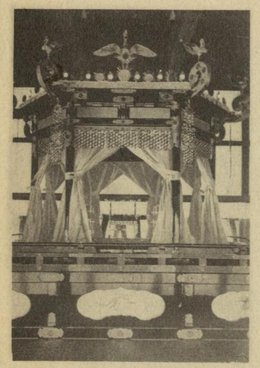
大正天皇御即位式（三）



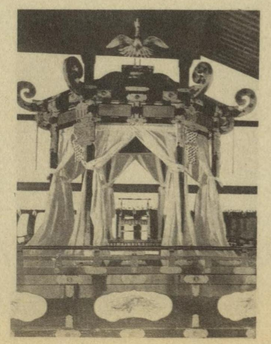
承明門より見たる紫宸殿（上）

大正四年十一月十日御即位日當日威儀の整位に就きて準備全くなれる紫宸殿前庭

十日午後一時四十七分參列員着席午後三時八分、大正天皇は高御座北階より昇御御椅子に着かせ給ひ立御諸員の最敬禮を受けさせ給ふ。總理大臣大隈重信西階より下り右側承明門内に入り威儀諸員の間を過ぎ南階の下に起立すれば天皇は勅語を給ひ大隈首相は鞠躬如として南階を上り勅詞を奏し終つて階を下り左右萬歳幔の中間に立ちて北面して萬歳を三唱した。時に午後三時三十分。殿上庭上の參列員又萬歳を三唱し儀仗兵の喇叭、百一發の祝砲の殿々たる裡に日本全國同時刻に萬歳を三唱して御大禮を奉祝した。



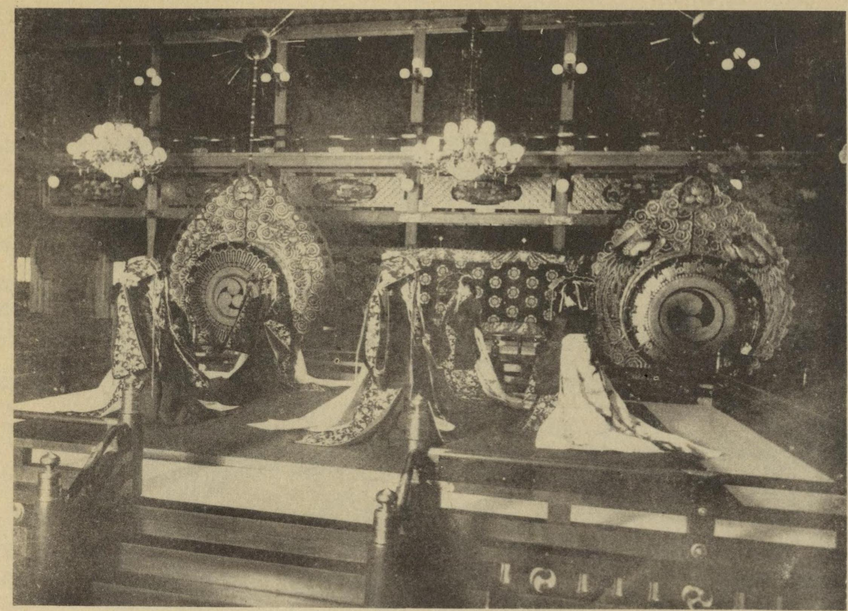
（上）御登極の高御座



（下）皇后宮の御帳臺

紫宸殿上の南廂西端より謹寫せる高御座（中央）及び御帳臺（右）

衣冠束帶にて勅詞を奏せる大隈首相及び夫人

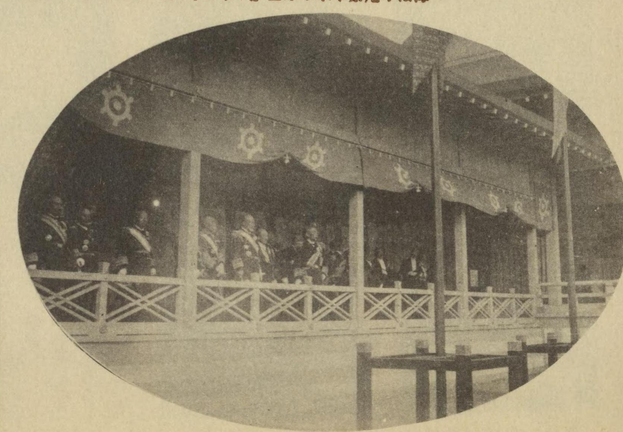


二條離宮舞樂殿に於ける五節舞（十一月十六日）

大正四年十一月十六日及び十七日の二條離宮內の方四十一間の大饗宴場。正面の錦帙障は今尾景年筆の水墨『松年了』圖。（寫眞は十六日拜寫）

上野奉觀會に行幸の大正天皇

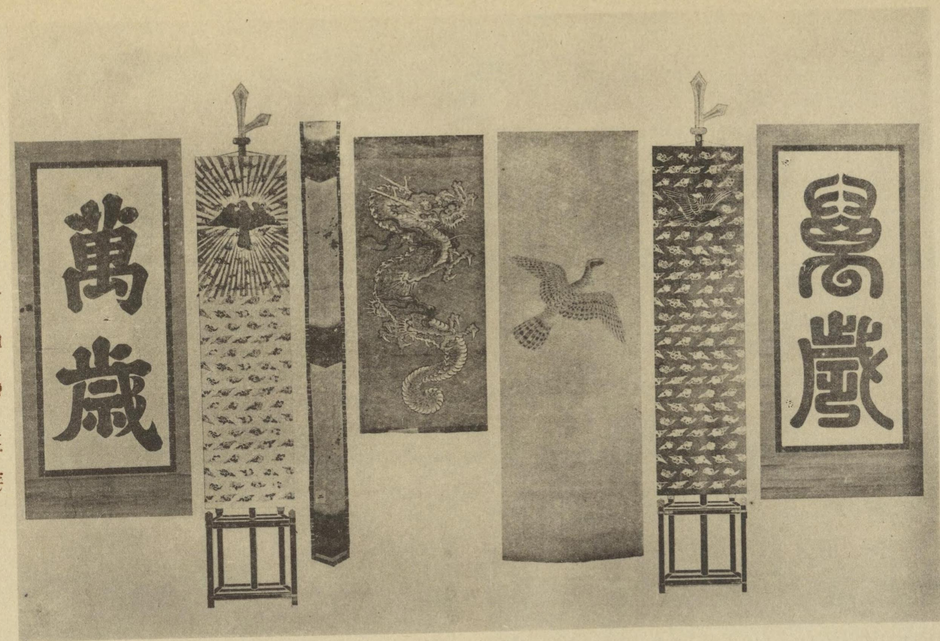
上野公園に於ける東京市奉觀會（十二月九日）
奥田市長の發聲にて六萬の參列員、天皇の御前に萬歳を三唱せる刹那。



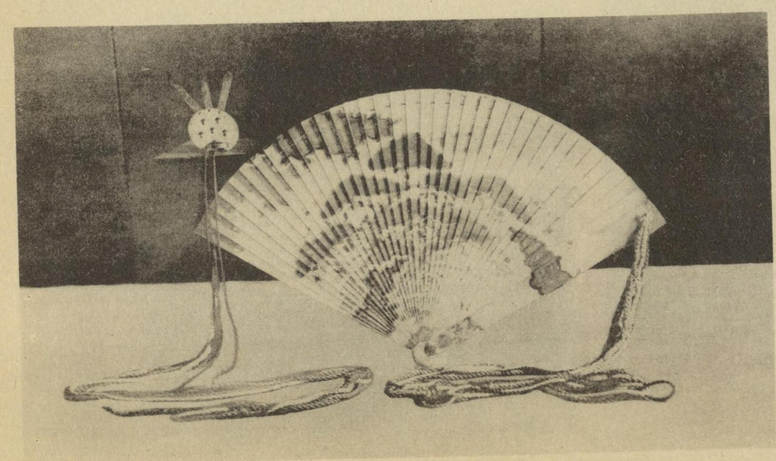
東京市奉觀會式場に於ける名士

御即位式御調度品

青楮衣（アチスノコロモ）（上右）
大嘗祭鎮魂祭の御儀に大嘗宮南面神門外拔に奏する儀舞、大嘗祭後大饗第一日に舞樂殿にて奏する久米舞等に着するものにて小忌（オミ）とも云ふ。

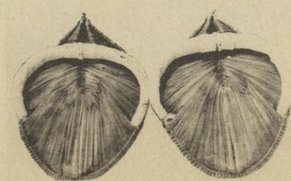


御用の各種幟（上左）
紫宸殿南庭に飾らるべき諸旗。右より。萬歲幟。頭八咫烏大錦旗。鷹像旗。龍像旗。鞆足。靈鑑形大錦旗。萬歲旗。

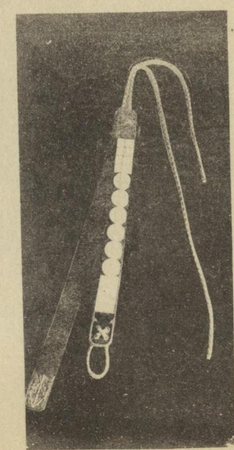


皇后陛下の御檜扇及び釵子。白色の檜にて作りて松に鶴を畫いてあるは。釵子は典侍の用ふるもの
儀典侍等の用ふるもの

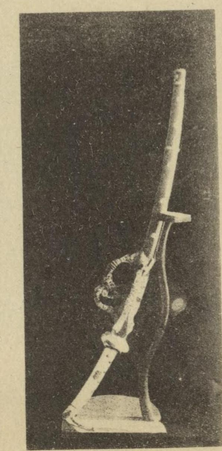
御　履（上）
下部は革、上部は將校錦大正天皇の御時には威儀の本位のみ用ひられた。



御太刀（オメフト）（下）
全部鞣製、縱八寸三分。橫六寸二分。光格天皇御用のものを拜寫。

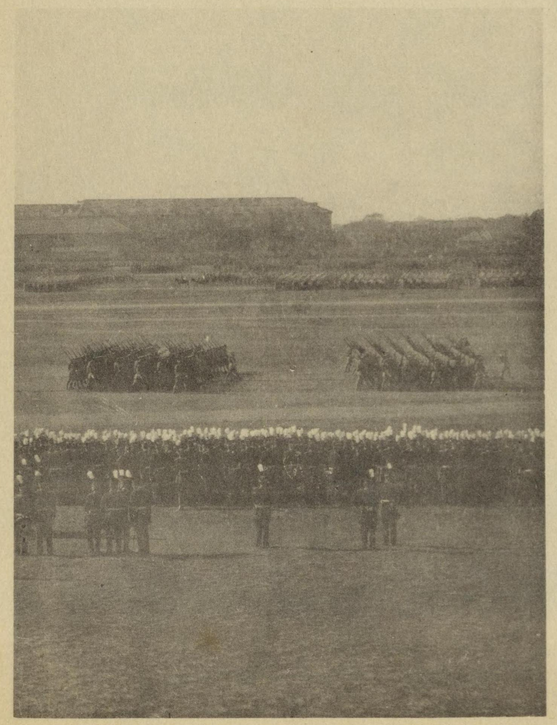


石帶（いしのおび）
帶劍の上方腰にしめるもの

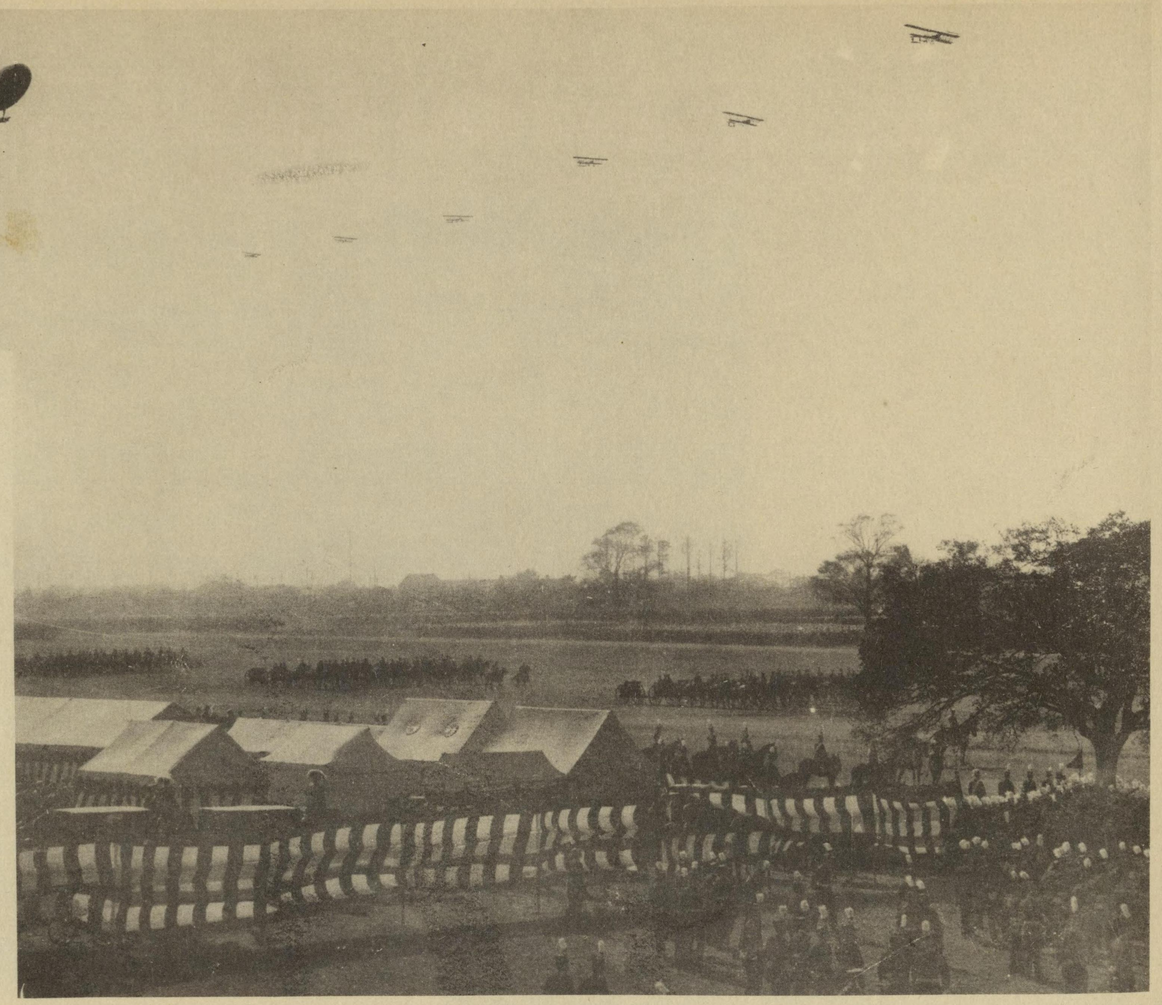


皇族大禮使の佩刀

大禮特別大觀兵式



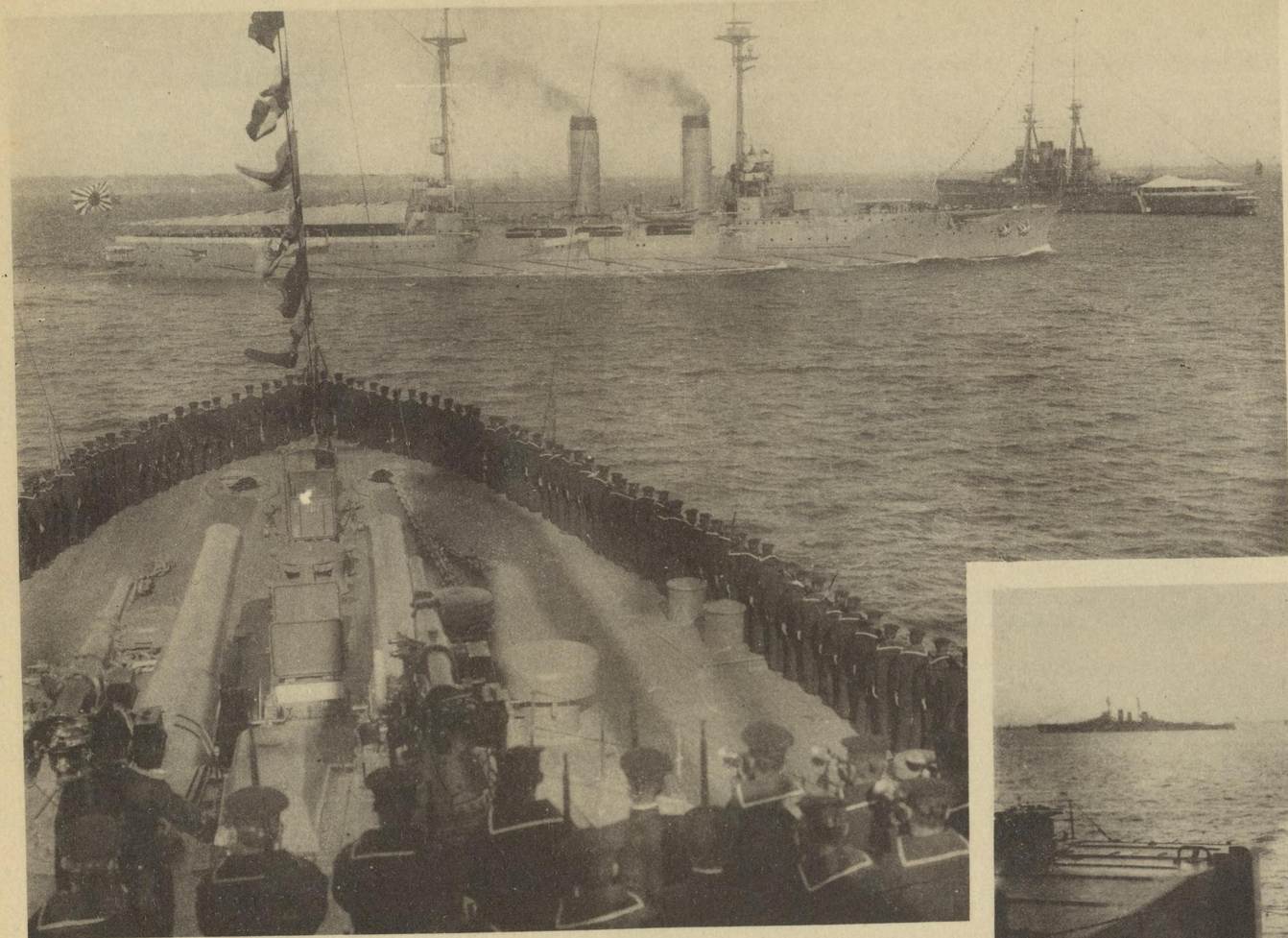
下、步兵の分列行進



青山練兵場に於ける大禮特別大觀兵式
大正四年十二月二日御親行、砲兵の分列行進と飛行機及び飛行船『雄飛號』の空中分列式の壯觀

東京に於ける大禮を了せらるるや大正天皇は大正四年十二月二日青山練兵場に於ていよいよ大特別大觀兵式を御親閲遊ばされ、飛行隊、各師團及び衛戍、各駐屯軍、各守備隊代表部隊三萬九千餘人、馬四千五百頭、砲二百門、飛行機十臺、飛行船『雄飛號』一隻參加し眞に未曾有の盛觀であつた。

大禮特別大觀艦式



下、參列艦の皇禮砲發射

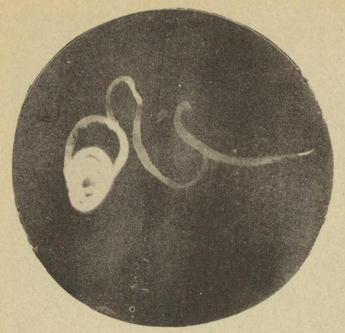
大禮特別大觀艦式

大正四年十二月四日午前十時より東京灣頭にて擧行されたる大觀艦式。御召艦筑波の進航と戰艦河內の登舷禮。

大正四年十二月四日東京灣に於いて大禮特別大觀艦式を行はせらる。帝國海軍の艦隊桑扶艦隊、總トン數六十萬五千トンを以下二百二十五隻、横須賀追濱なる海軍航空隊の飛行機、數十機の艦上攻撃隊は現に空中分列式を行ひ、各艦と砲禮を交はし、皇國の三千歲萬と樂を奏し、國旗は實に海軍の本日の象徴として空前の觀艦式であつた。

米國曲乘飛行家アート・スミスの來朝

スミス氏に恩賜金傳達(下) 當時皇太子に在しゝ今上陛下よりの恩賜金を傳達する長岡中將(左)と感恩に感泣しつゝあるスミス氏 (大正五年六月五日青山練兵場飛行會場にて)

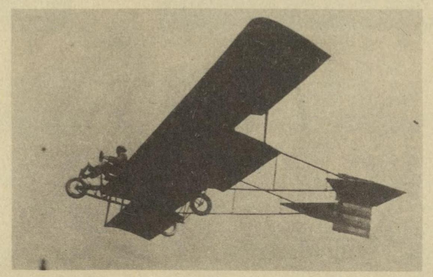


スミスの夜間宙返り飛行 (上)
大正五年六月五日告別飛行に際し同日午後八時青山練兵場上空にて行ひたる宙返り飛行。

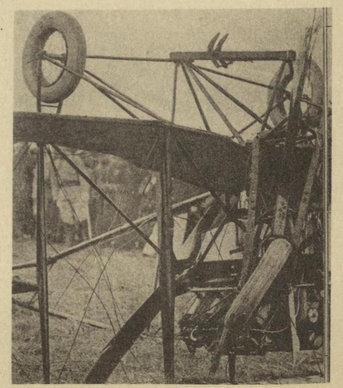
スミス歓迎會 (下)
大正五年六月二日上野精養軒に於ける歓迎會。

(上) 米國曲乘飛行家
アート・スミス
(下) 大正五年六月十六日札幌にて墜落せし當時の寫眞

低空同乘飛行 (下)
(大正五年六月十一日宇都宮にて)



飛行中のスミスと



北愛口 (上)

大正五年六月來朝の米國青年飛行家アート・スミス氏は朝來の我飛行界に驚異を與へ、黄塵東京全市を覆ふ物凄い程の常非な動揺は風速二十三米に達し、飛行の度毎に暴風雨を冒して宙返りを演じたり。六月四日午後二時青山練兵場上空に於て大に感激してアイヤモンドの二十三個を入たるメダルを贈つた。

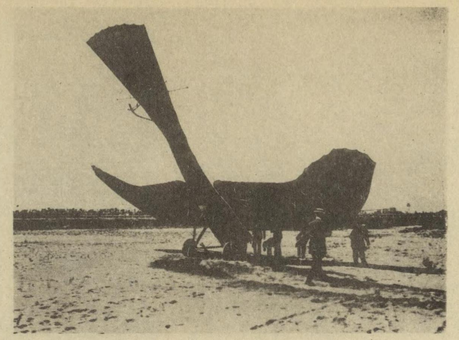
高さ五百五十丈の宙返りを演じ、陸軍大臣を始め中將以下の人々に感謝の意を表した。

九回の宙返りを演じ皇太子に在しゝ今上陛下よりの金一封を賜つた。

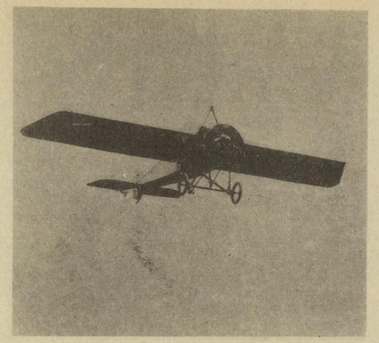
朝來たつた一人の外國人飛行家も我國民に愛されたのもスミス氏であつたかなはのもたつた。

來朝せる外人飛行家と民間飛行界

機郵海軍少佐のルンプラー飛行機

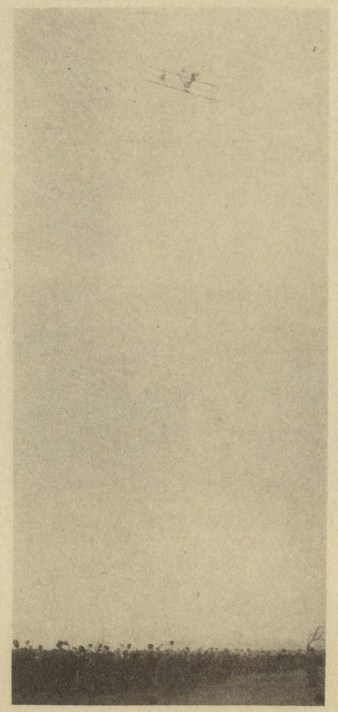


萩田氏のセーブル草葉「剪風號」

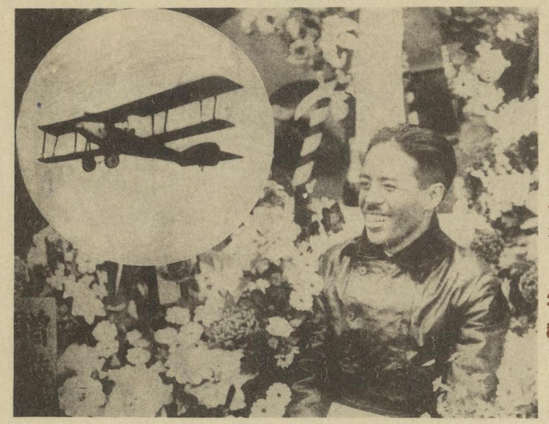


米國飛行家チャンピオン

米國曲乘飛行家チャールス・エフ・ナイルス(上)と大正四年十二月十一日青山練兵場に於ける得意の宙返へり飛行(左)

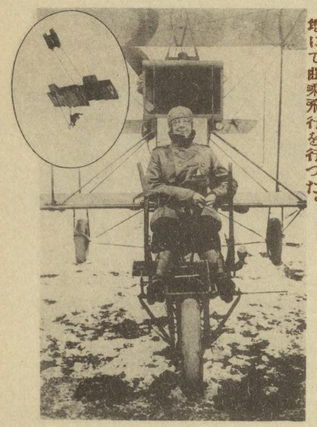


東京大阪間郵便飛行一等賞者佐藤章と愛機

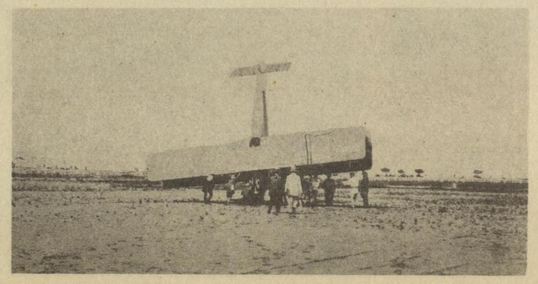


スチスソン號(大正六年四月來朝)

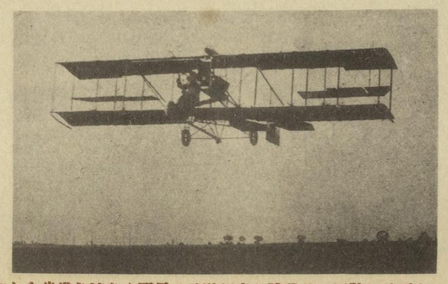
ルース・ロー夫人(中段左端)



大正八年一月下旬來朝、二月一日東京洲崎埋立地にて曲乘飛行を行つた。



高左右藏之の高左右式複葉機



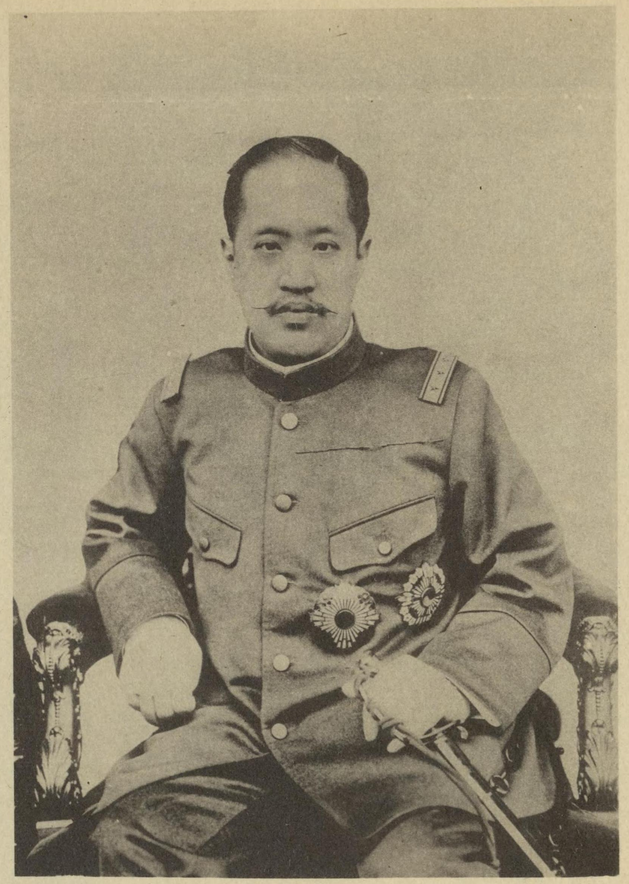
坂本春一の坂本式複葉機

日本の飛行界は明治四十四年米人バットマーフスの來朝、同年サンドーターナー夫人の水上機飛行に刺戟され大正八年陸軍で英佛飛行班招聘後は民間も急速な進歩をしたが、昨年の大正四年十二月十一日の東京大阪間郵便飛行に及び佐藤章、水田中尉、山縣豐太郎の三氏參加し所要時間三時間十八分で佐藤章氏の一等賞となつた。

チャンピオンの少尉の來朝、式原良奈方一等飛行士の發、ルース・ロー夫人、スチスソン號、次いでアーストミスの曲乘飛行を演じ、初めて山青に年に大正四年ルイナルスが來朝、二月一日東京洲崎埋立地にて曲乘飛行を行つた。

李王殿下の御來朝

李王殿下の釜山御出發（大正六年六月九日）



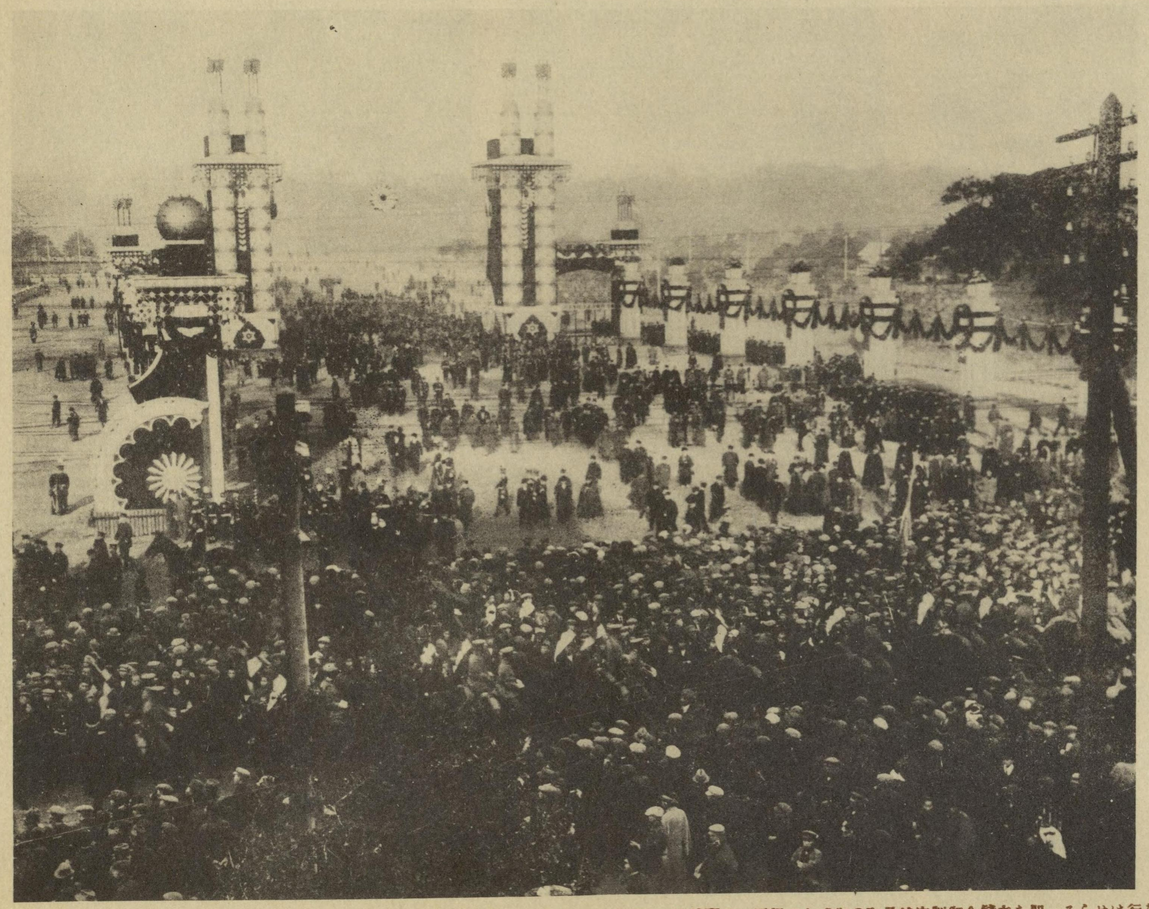
御來朝の李王殿下

左、李王殿下の御參內
大正六年六月十四日午前十時御參內、靈ヶ岡附近御通過の有樣

李王殿下は天機奉伺の爲大正六年六月八日京城御發出發あり九日午前十時三十分平壤肥前に釜山御出發、六月十二日東京に着御あらせられ十三日は御休息の上、十四日午前十時陸軍大將の正裝にて御參內鳳凰間にて天皇に拜謁、直に榻の間にて皇后に拜謁あらせられ午前十一時三十分御歸館になつたが內國內御遊覽の後同二十八日釜山御陸上御歸國になつた。

裕仁親王の立太子禮

立太子禮當日の馬場先門附近（大正五年十一月三日）



立太子禮當日の迪宮裕仁親王殿下
（空頂墨續、丹鬚袍御服を召さる）

大正五年十一月三日迪宮裕仁親王の立太子禮を行はせらるゝに當り、即ち式の初め大正天皇御親ら前に立ち給ひ、親王は王冠を戴き、空頂墨續の袍服に丹鬚を召さる。

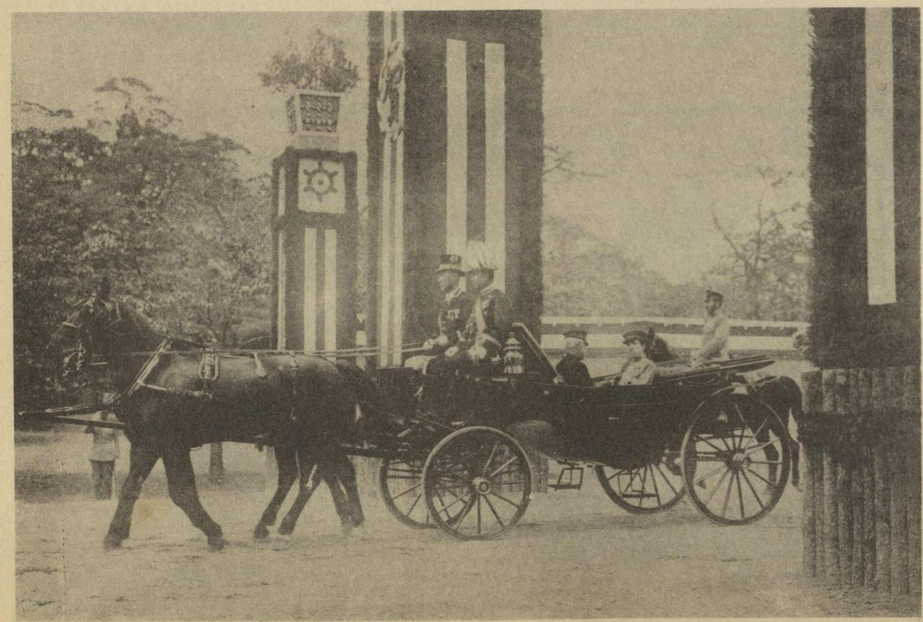
勅語を賜はり、次いで朝見の儀に移らせ給ふや、親王は王冠を戴き、空頂墨續の袍服に丹鬚を召さる。

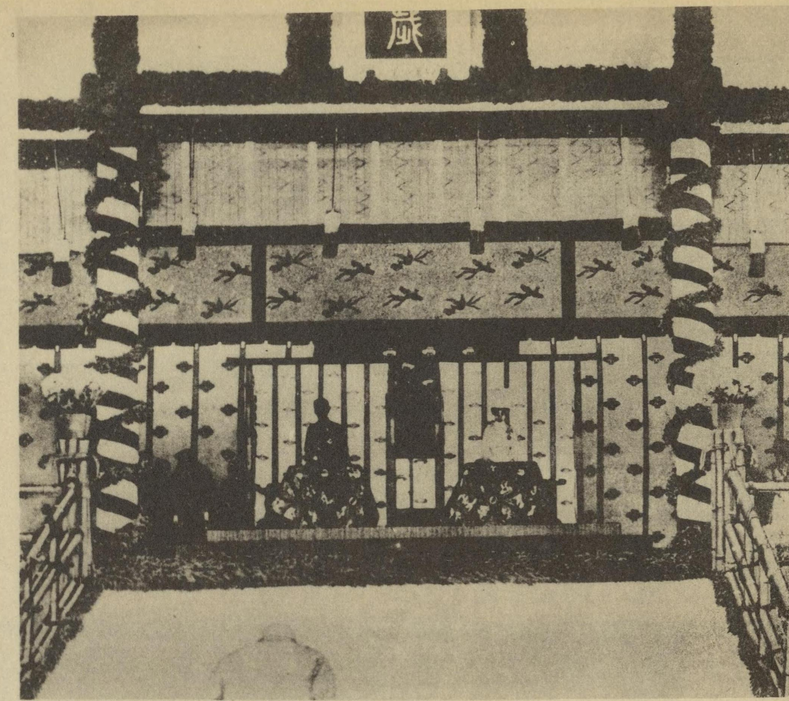
此日全國は挙げて立太子禮を祝し奉り、東京にては馬場先門に大祝奉門を作り、花電車、諸行列等の催あり、中々賑つたつた。

東京市長 尾崎行雄。 内務大臣 田尻稠次郎。 長岡外史。 相模大臣 本田親雄。

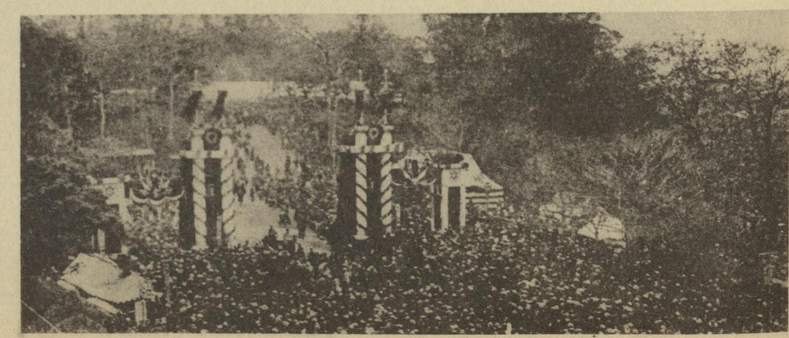
東京驛前の大名行列

上野祝賀式場に向はせ給ふ大正天皇(御陪乘は正親町侍從長)





上、上野公園東京市奉祝式場に臨御あらせられたる大正天皇及び皇后陛下。
御前に最敬禮を爲せるは東京市長田尻稠次郎氏。
下、上野公園前の雜閙

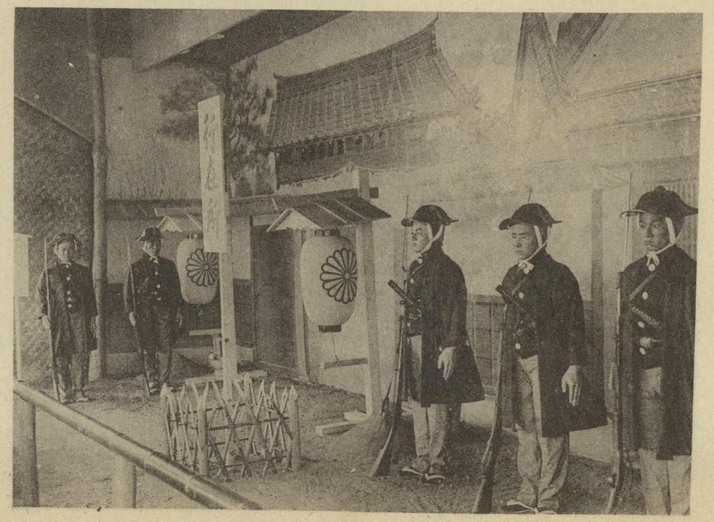


東京市の奠都五十年祭は、大正五年八月九日上野公園内奉祝式場にて盛大に擧行せられた。此日大正天皇及び皇后陛下は午前九時宮城御出門。日比谷より芝口、日本橋を經て上野へ向はせ給ふ大正天皇(御陪乘は正親町侍從長)。當日は大行列及び其他種々の興があつたのでの、鳳輦拜觀及び餘興見物の爲上野へ押へ寄せ掛つた人々は實に百萬人と註せられ、午前十一時式後の祝賀式場に臨御あらせられ、東京市長田尻稠次郎氏より祝辭を受けさせ給ひ、引續き東京市長田尻稠次郎より移に式後大祝賀會を開催せられたる。式後大祝賀會は東京市の萬歳三唱、山本農相の萬歳三唱、日比谷より芝口、日本橋を經て上野へ向はせ給ふ大正天皇(御陪乘は正親町侍從長)。

奠都五十年奉祝博覽會

右、奠都五十年奉祝博覽會全景
大正六年三月十五日より五月三十一日迄開會
左、第一參考館
宮內省の御下賜品を陳列す

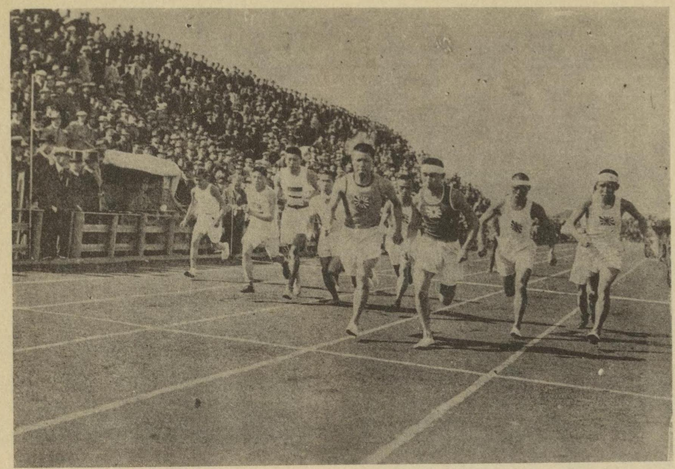
ジオラマ『東海道芝生村外人拜觀』
程ヶ谷と神奈川宿の中間にある一村落にて横濱在留外人に限り御東帝御行列を拜觀せしめられたる有樣（芝生村は後の横濱市淺間町である）



ジオラマ『草津宿行在所』
明治二年三月七日行在所となりたる本陣田中七左工門宅に御着輦奉迎の有樣で此家屋は今尙存置せらる。

奠都五十年奉祝博覽會は大正六年三月十五日より五月廿一日迄上野池ノ端に開會され、建禮門型模の正門を入れば御東幸のジオラマが二十六景あつて京都より東京迄の有樣が描かれて當時の御行列を彷彿たらしめ非常に好評で評判の一物であつた。筆者は五姓田芳柳畫伯を始め各皇族方より大帝に關する文獻其他の貸下品があり珍重すべき資料が山積して居つた。

第三回極東オリンピック大會（一）



五月九日十哩短縮マラソンの出發（一等松江青年會）
橋本源市五十五分五十七秒五分の一

大正六年五月八日芝浦に於ける第三回極東オリンピック大會入場式と
名譽會長大隈伯の開會の辭

五月十二日十哩マラソン。品川八ツ山鐵橋通過（一着橋本源市）

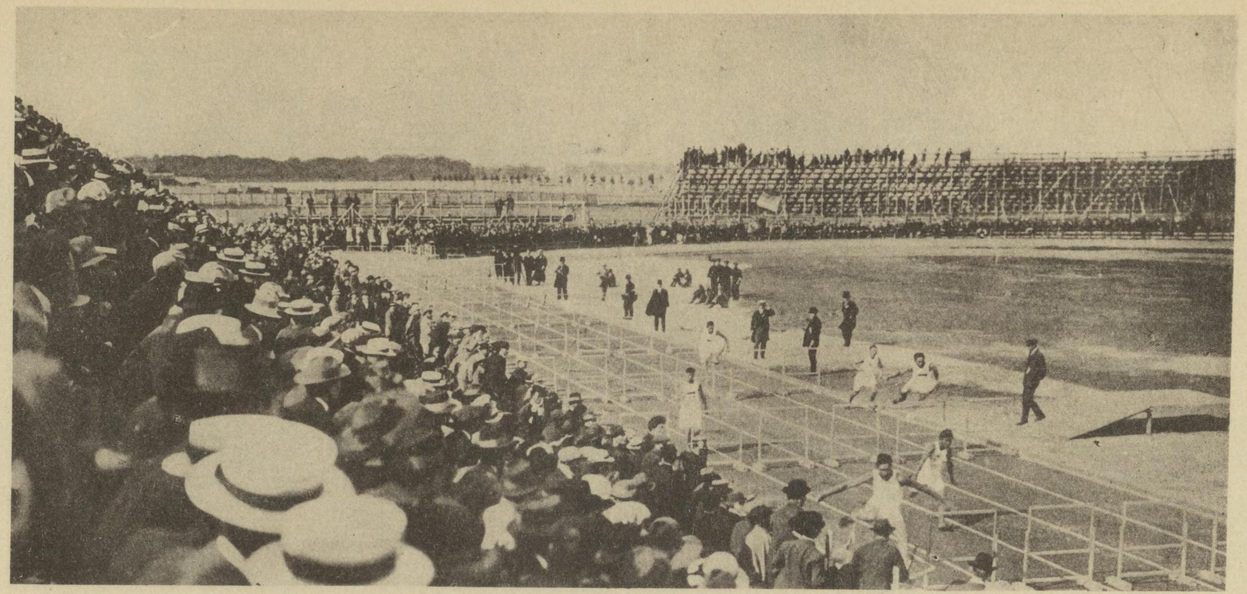
五月十一日支那對ヒリピン排球本競技
（支勝軍）

五月十二日の二百二十ヤードの水泳決勝

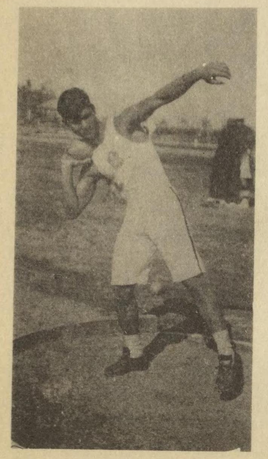
極東オリンピック大會は日、支及ヒリピン三國青年間に隔年に催さるる競技で第三次大會は大正六年五月八日より十二日芝浦埋立地の急設スタヂユーム で行はれ名譽會長は伯爵大隈重信氏で加納治五郎氏が主任であつた。午後二時ヒリピンの多久島ヤイバラの本久義氏及び支那の施奎麟氏が選手團を率ひて入場式を行ひ大隈伯の開會の辭を朗讀し各國旗を掲げて競技に入つた。此日夜來の雨晴れて好天の快晴で二萬餘の觀衆を場内に埋めて盛會な開會式を行つた。松江青年會の橋本源市君が十哩、二十五哩マラソンに第一着の榮冠を得て凱歌を擧げた。

第三回極東オリンピック大會（二）

槍投一等、齋藤兼吉（高師）
百四十三呎六吋。同氏は又水上五十五十。
百ヤードの双方にも一等となる。



百二十ヤード・ハイ、ハードル決勝
第二日目の百二十ヤード高障碍競走であつて一着比島選手ヲバヤ十七秒五分ノ一、二着支那選手張信学十七秒五分ノ二。三着比島ji手ロザダ。十七秒五分ノ四。

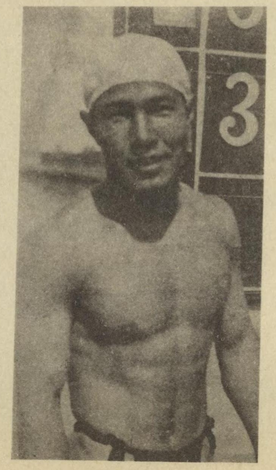


砲丸投げ一等。アルバレス
カバニラ。（比島）

一哩リレー一着。多久儀四郎
（愛知第一中學）

テニス優勝熊谷一彌

走高飛一等。袁慶祥



水上二百二十ヤード及び八百八十
ヤード一等。内田正保（札幌農大）

二十五哩マラソン一着
橋本源市（松江青年會）

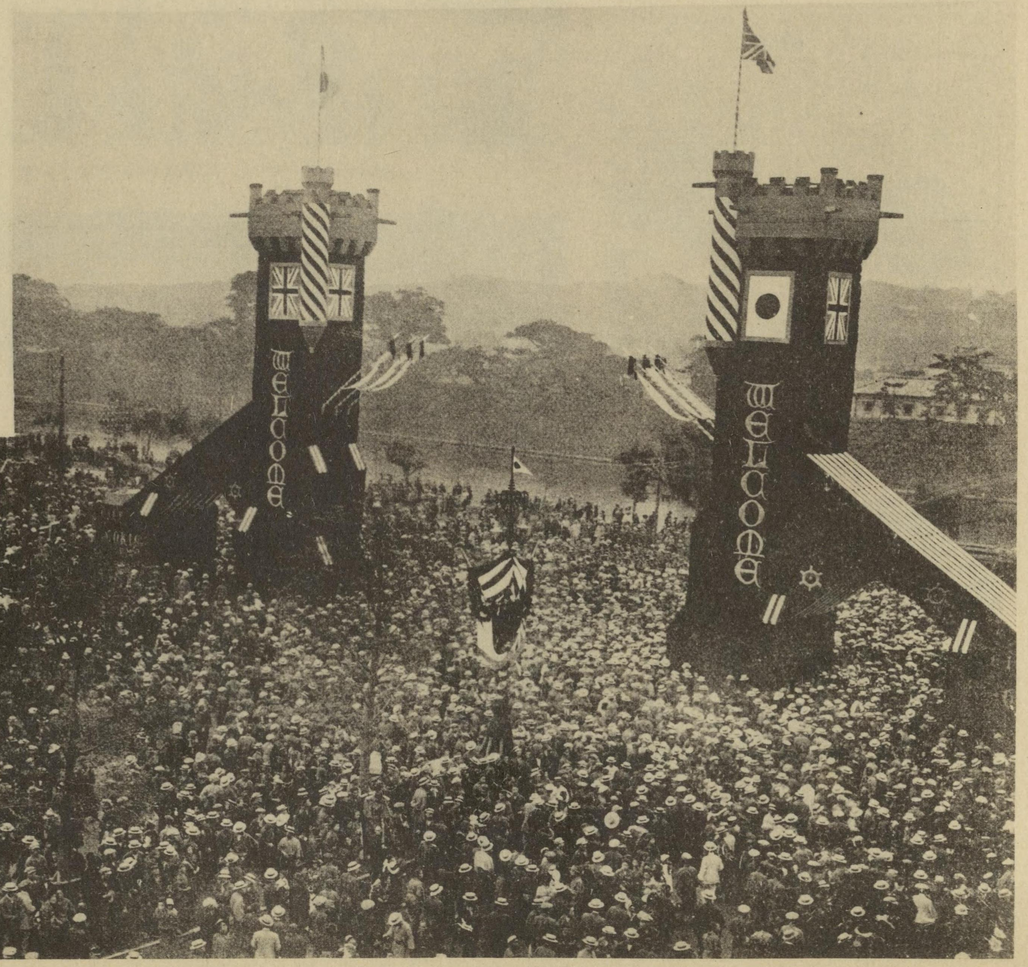
コンノート殿下の御來朝

上、御參内のコンノート殿下

大正七年六月十八日御着京ありたるアーサー・オブ・コンノート殿下は翌十九日午前十一時接伴員伊集院元帥と御同乘、霞ヶ關離宮御出門、宮城二重橋より御參内、暫時休憩の後、正殿に參進、中央玉座には大正天皇陛下御あり、左右には伏見宮以下各皇族殿下、及び山縣元帥以下陸海軍各元帥各大臣等並列し、コンノート殿下は拜禮の後玉座の階段を昇りて英國皇帝の御親書を捧呈、次いで海老茶色の高貴の器に納められたる元帥杖を捧呈せられ、英國々歌の吹奏裡に捧呈式は終りて午前十一時三十分宮城を御退出になつたのである。

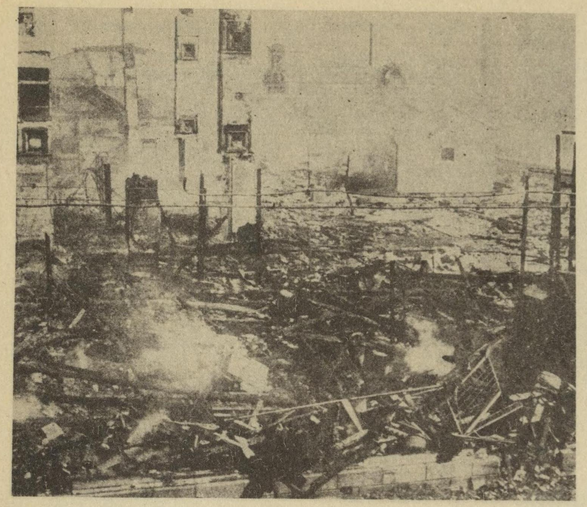
東京驛前の歡迎門と奉迎の市民

大正七年六月十八日御來朝の英國皇帝アーサー・オブ・コンノート殿下歡迎の爲東京驛前通に立てられたる歡迎門と詰集し たる萬歳の市民



大正七年六月十八日午前十一時三十分英國皇帝アーサー・オブ・コンノート殿下は特別列車中の人となりて東京驛に御着あり、長く親しく御出迎へなつたる天皇陛下は東京驛前の歡迎門を潜御し、殿下は伏見宮殿下と御同乘の御馬車に乘り霞ヶ關離宮に御入りあり、殿

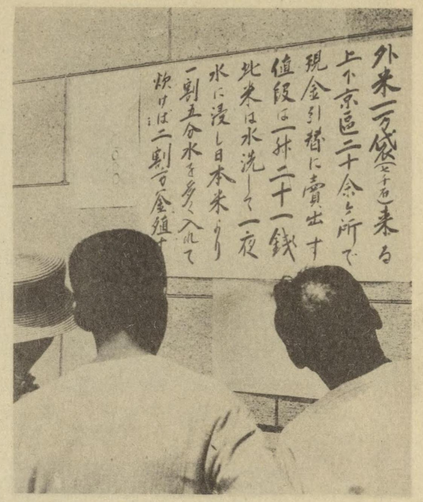
米騒動（一）京阪神に於ける暴動



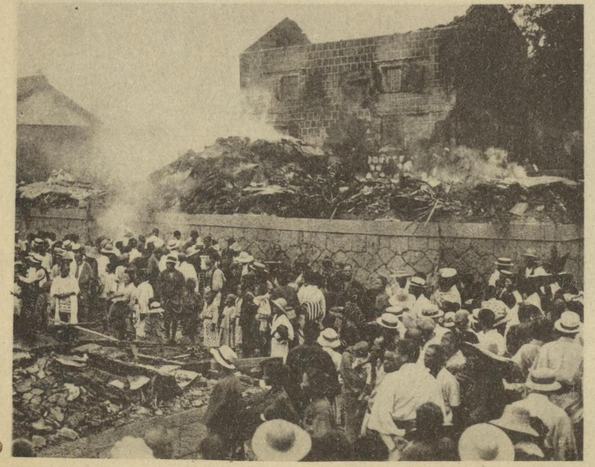
八月十二日燃拂はれたる神戸鈴木商店

八月十二日夜深草歩兵第三十八聯隊の京都市中警戒

八月十三日京都下京區一ノ橋小學校に於ける外米廉賣



大正七年八月十二日京都市公設外米廉賣の廣告

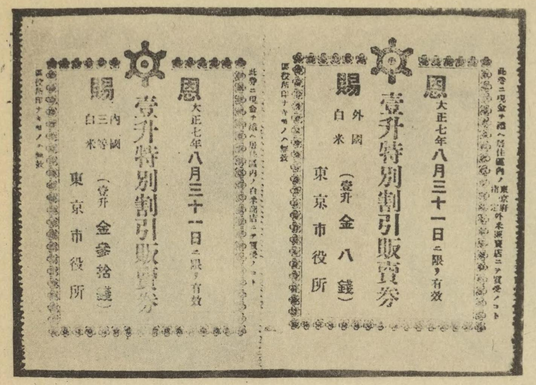


八月十三日午後十一時暴徒の爲燃打されたる岡山精米會社

八月十二日夕古屋泥江橋交番暴徒の爲破壊さるる

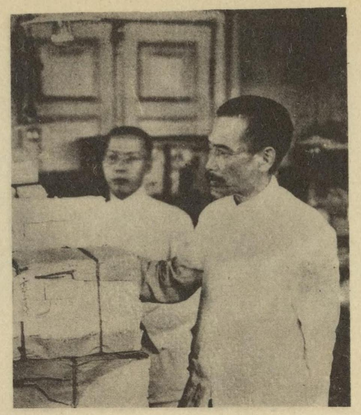
八月十一日夜大阪米騒動に出動せる在郷軍人團の武裝

大正七年七月頃米價騰貴し一升二十五錢より四十五錢に上り八月八日富山縣滑川の漁夫の女房連の米屋襲撃に端を發し各地に波及し日本米の値段は一升二十一錢に上り京都下京區一ノ橋小學校に於ける外米廉賣は一升二十錢に上り大阪市内の暴動は和歌山、廣島、戸畑、岡山、神戸、大阪、京都、神戸、岡山の順に暴徒の爲焼打されたる米屋は二十一箇所に及び其の中に豪富の邸宅を襲ひ米を初め家具を奪ひ去り其の中に豪富の邸宅を焼き逐に地方に波及し暴徒の爲に出動せる軍隊は各地に於て暴徒に發砲し一時は騒擾を鎮撫し事態は一応鎮静に向ひたるも尚ほ暴徒の爲に焼打されたる米屋は二十一箇所に及び其の中に豪富の邸宅を襲ひ米を初め家具を奪ひ去り

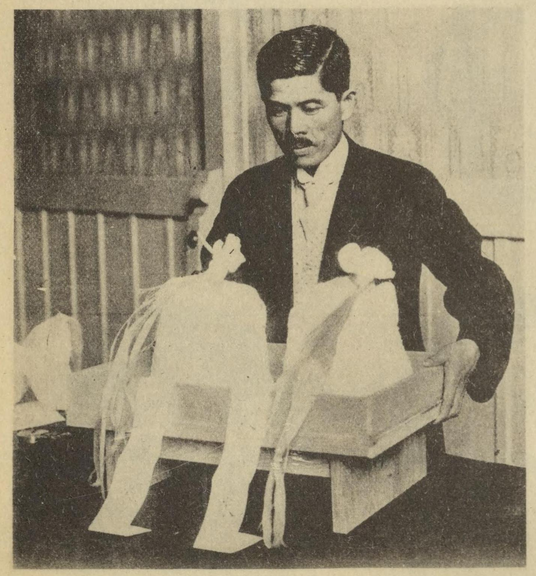


恩賜の廉賣米券（右）外米券（左）內國米券

大正七年八月十三日東京日比谷公園內音樂堂附近の雷雨



米券配付を監督しつゝある田尻市長



東京府より献上せる外米及び朝鮮米

白米巡廻廉賣

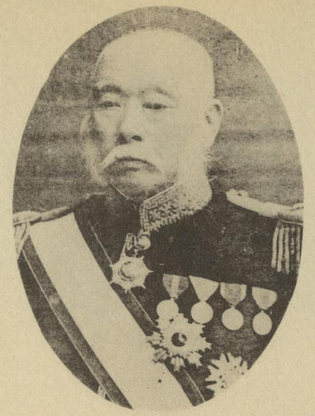
大正七年八月十三日夜東京に起つた米騒動は十四日に至つて益々不穏となつたので東京府は十五日より外米一升十錢にて。白米組合は內地米一升三十五錢にて廉賣した。寫眞は十四日下谷青年職男團の白米巡廻廉賣。

京阪神地方の暴動は遂に大正七年八月十三日東京に傳播し、暴徒は同夜七時半頃より銀座、日本橋、淺草公園に米盡商店を襲ひ十四日夜より益々不穏となつた。此米騒動の雷鳴もく長陛下の恩召によつて東京府は八月二十二日外國米及び朝鮮米を献上し、宮內省では翌二十三日の正午長く も陛下の御供に奉つたと云ふ事であつた。

大正天皇には御內帑金三百萬圓を賑恤資として御下賜あり先づ東京市は八月三十一日の天長節を以つて恩賜デーと爲し廉賣米券二四十一萬五千三百枚に相當する米を賣つた。又天皇陛下の恩賜の廉賣米券（右）外米券（左）內國米券

名士のおもかげ

森有禮


高崎正風

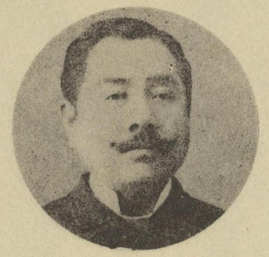
品川彌二郎

大鳥圭介

板垣退助

佐々木高行

三浦梧樓


芳川顯正

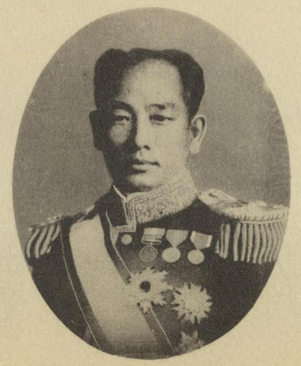
大浦兼武

林董

後藤新平

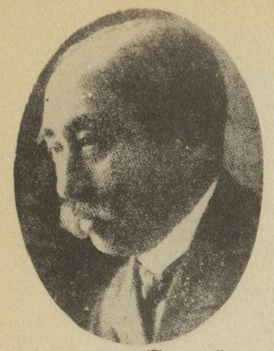
河野敏鎌

清浦奎吾


伊東巳代治

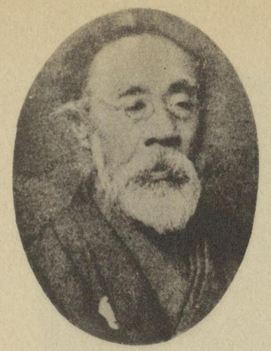
羽根田

醫學界の名士と女流教育家

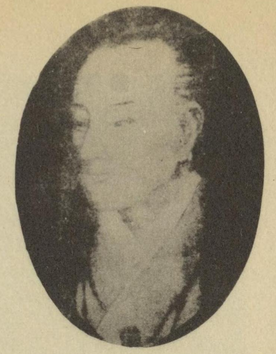

佐藤進

石黒忠悳

長與專齋


長谷川泰

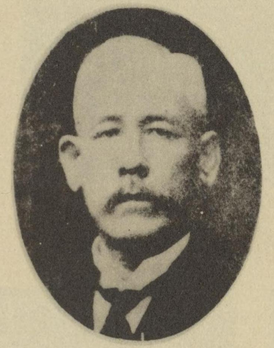
橋本綱常

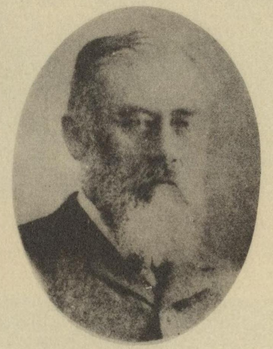

緒方洪庵

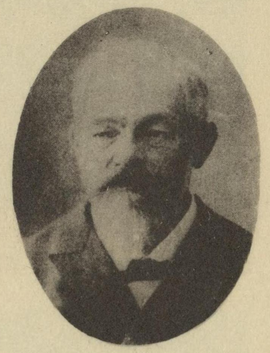
北里柴三郎

高峰讓吉

入澤達吉


青山胤通


ベルツ


スクリバ

高橋孝子

山脇房子

櫻井錦子

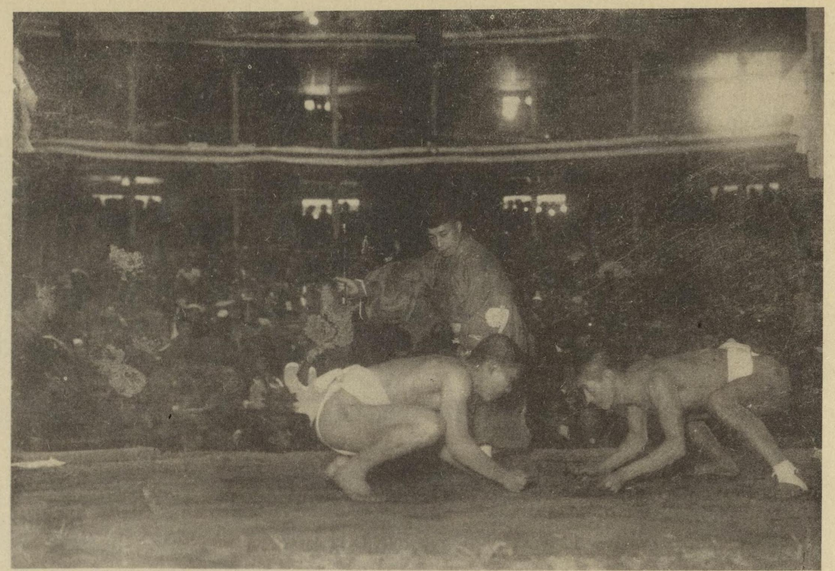
下田歌子

奥村五百子

從所教子

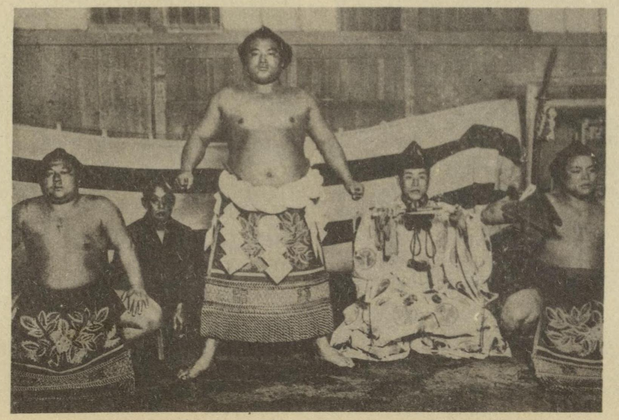
大正初年の相撲界

村木司行、谷ヶ梅、りよ右。日五十月六年三正大。入儀土の横綱三撲相退引山陸常
。山刀太、山陸常、助之庄



加參八十校學門專。十二學中。行擧てに館技國日一月二年二正大。撲相生學回一第
。たつあで況盛ふ云と人萬五來觀。人十七百手選

公寺王天日九月三年五正大。み込乘阪大の撲相京東
手握のと（五）錦大阪大と（左）錦大京東。會迎歡國

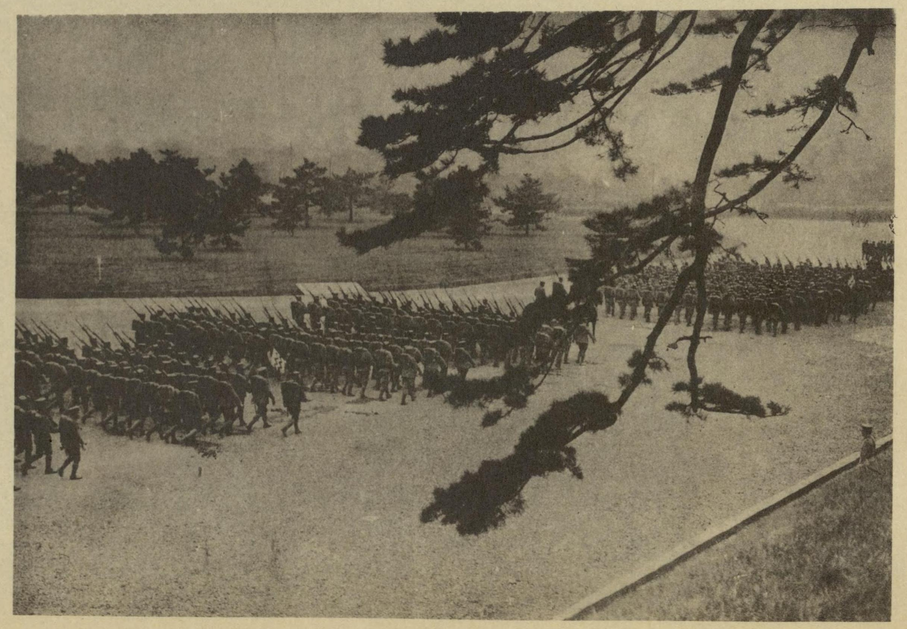


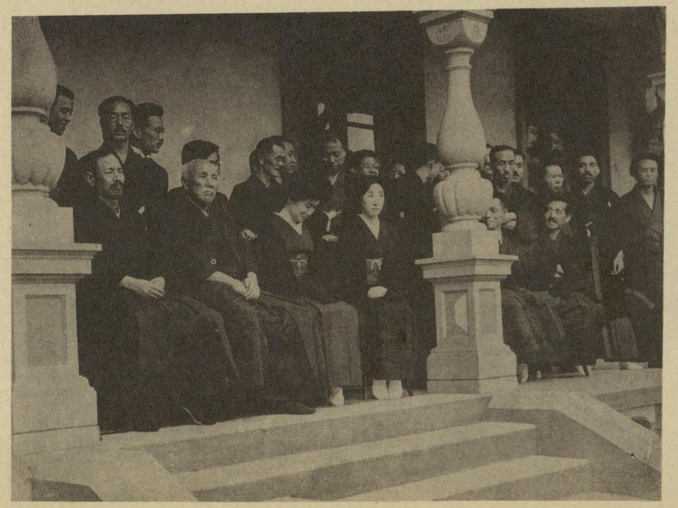
山木柄持刀太。日七月三年六正大。り入儀土の錦大
。陸常小拂露、太勸し出呼、錦大、夫太錦司行

（す寫てに邸自）日七十月二年四正大。り入表土の鳳
。邸太勸守式司行、戸柏持刀太、潟船御ひ拂露

宮城前の觀兵式・大隈侯の文士招待

下、宮城前の觀兵式
大正七年一月八日の宮城前外苑に於ける陸軍始大觀兵式。
左、電氣博覽會
大正七年三月二十日より上野不忍池に開會された る電氣博覽會。





右、大隈侯の文士招待
大正八年六月十四日大隈侯邸にて
中央侯爵、其左、建部博士、侯の右は小寺菊子、三津木貞子柱の陰正宗白鳥、貞子の後上司小劍、建部博士の後は岩野泡鳴。
上、古式蹴鞠の復活
奉讃會にて大正七年四月公開せるもの。

觀兵式は大正七年一月八日の宮城前外苑に於ける陸軍始大觀兵式。又大正七年六月十四日大隈侯邸にて大日本文士招待會を開催せられたのである。

大隈侯は自分の主宰する雜誌『觀大』を發行し、同年一月六日に創刊の同誌は我國文學者の共同の機關として、文學者を招待し、文藝の將來を論じたり、古式蹴鞠の復活を企圖し、奉讃會を開催せられたのである。

大正七年七月一日の電氣博覽會は、上野不忍池に開會された。

大正七年一月八日の宮城前外苑に於ける陸軍始大觀兵式は、天皇陛下御親閲の下に、廣場の前面に、二重橋を背景として、行はれた。

大正七年一月八日の宮城前外苑に於ける陸軍始大觀兵式は、天皇陛下御親閲の下に、廣場の前面に、二重橋を背景として、行はれた。

歌劇の全盛時代

寶塚歌劇團『羅祭』（上　右）
大正七年五月二十二日より二十六日迄
帝國劇場にて上演

家庭踊（上　左）
大正八年頃より音樂家田邊尚雄氏の創案せる家庭踊。
右端田邊夫人

觀音劇場喜歌劇『マスコット』（下　左）
大正四・五年頃の淺草觀音劇場にて上演。中央清水金太郎、其向つて右、清水靜子。左。杉實。

パンドマン歌劇團の來朝（下　右）
大正三年六月二十六日より七月二日迄
帝國劇場にて上演
寫眞山本帝劇專務及び歌劇團

歌劇は明治三十六年東京音樂學校學生有志によつて『ルクツルの』が演ぜられたのが最初で、田園の美女達が『オエフルオ』の花形で、たつぬ。明治末年に寶塚に少女歌劇が起り清楚な清水金太郎、其向つて右、清水靜子。左。杉實。

大正八年頃より音樂家田邊尚雄氏の創案せる家庭踊。

右端田邊夫人

觀音劇場喜歌劇『マスコット』（下　左）

大正四・五年頃の淺草觀音劇場にて上演。中央清水金太郎、其向つて右、清水靜子。左。杉實。

東京驛の開通

中央停車場として數年前より麹町區丸之内に建設中であつた東京驛は、工事全く竣成を告げたので、大正三年十二月十八日開通式を擧げた。該工事は起工以來七ケ年の歳月を費し、總經費三百餘萬圓、使用職工は七十四萬人を要した。今其の概要を記さんに、停車場の敷地は總面積六萬五千三百坪、本屋は長さ百八十四間、幅十一間より最大二十二間に至り、其建坪は二千三百四十一坪にして、内二十七坪は一階建五十六坪は二階建、其他は總て三階建である。而して南北兩端部には各地下室を有し、其南方の分は二百五十五坪、北方の分は七十四坪、各階を通じたる全部の延面積は七千二百四十二坪である。建物の高さは普通三階建の部分は軒高地盤上約五十四尺左右八角廣室最高部塔の頂部天頭までは約百五十二尺である。停車場本屋の樣式はルネツサンス式で、其技術上に關しては、明治三十九年工學博士辰野金吾氏に囑託し、同博士及び葛西萬司工學士の兩人に依つて設計され四十三年十二月を以て完了した。又内部の雜作は四十五年三月に着手し、大正三年三月竣工を告げたのである。斯くの如く大規模の建築にて、其の内容外觀ともに善美を盡し、寔に帝都の玄關を飾る一光彩たるを失はぬものである。

明治神宮御造營費確定

明治天皇に關する神社奉祀調査會は大正二年十二月二十二日勅令を以て之が官制を公布せられ、同時に會長以下委員幹事の任命ありて、爾來着々として調査を續行され、神宮奉建地は代々木御料地内と決定した、此地は元加藤清正の下屋敷であつたが、後井伊家の所領となり明治十七年四月同家より宮内省に献上して御料地となつたもので、坪數二十四萬四千五十二坪で、南は武藏野に連り、遠く富士の靈峯を望み得べく、苑内には清冽なる井泉があり、畏くも明治天皇陛下には數度御臨幸あらせられ、御遺愛の樹木も尠からずある奉祀する神社名稱に就ては千代田神宮、武藏野神宮等の説もありしが、終に明治神宮と稱し奉り、官幣大社と確定し、祭日は十一月三日と決定した。而して神社の設計は内苑及び外苑を設け、社殿には本殿、拜殿、神門、廻廊、勅使殿、直會殿等あり、樣式は日光東照宮香取、平安、兩加茂各神宮、出雲大社、靖國神社等を參酌し「流れ造り」中、最も高尚莊嚴なるものを選み材料は總て日本領土内より産する檜の良材を以て素木造りとし、代々木の内苑には泉水あり、樹木あり、之等を利用して、土地に多少の高低を設け、尙ほ三十萬本の常磐木を植え、神殿の周圍には特に丈高き大樹を植えて神聖幽嚴の趣を添へ、神宮前には南北二筋の參拜道路を造り、車道、人道共常磐木を植え、且つ人道の兩側には杉を植え、又煙害、砂害、火災等を防止する爲め境内の周圍約二里半に涉り土壘を築きて之に濶葉樹を植え、境内に約三百坪の御物殿を設け明治天皇御六十年間の御料品を陳列す。外苑には民間の奉贊金を以て運動場、美術館、圖書館、博物館等種々の記念事業を興し又苑内には清砂芝生を敷き、且つ天然的の神苑たらしめ、之が設備として概算百五十萬圓を要する事となつた。

斯て明治神宮御造營費として政府は大正三年十二月十六日左の如く豫算費目を衆議院に提出したるが同十九日貴衆兩院とも滿場一致を以て之を可決した。

大正四年度歳入歳出追加豫算六十一萬六千二百三十三圓（内務省所管）

△神宮々域擴張費　五萬八百九圓△明治神宮御造營費　五十六萬五千四百二十四萬圓（内、御造營費　四十一萬五千四百二十四圓△境外道路補助費　五萬圓△土地買收及土工費　十萬圓）

尙ほ明治神宮御造營費總豫算は三百四十五萬七千三百七十九圓で、之を六箇年度に亘り繼續費と爲す、其内譯項目は左の如し

△御造營費　三百二萬八千九百六圓△境外道路補助費　三十萬圓△土地買收及土木費　十二萬八千四百七十三圓

明治天皇紀編修

明治天皇紀編修の爲め、宮内省に臨時編修局を設置することゝなり、十二月一日皇室令第二十二號を以て其の官制職員を左の如く任命された。

總裁正二位勳一等伯爵土方久元、幹事宮内大臣秘書官近藤久敬、編修長正三位勳一等股野琢、編修正五位勳五等文學博士三宅米吉、編修從五位重田定一、編修從六位池邊義象、顧問正二位大勳位功一級公爵山縣有朋、顧問正二位大勳位功一級公爵大山巖、顧問正二位大勳位侯爵松方正義　顧問正二位大勳位侯爵井上馨、顧問從一位大勳位公爵德大寺實則、顧問正二位勳一等侯爵西園寺公望、顧問正二位勳一等子爵杉孫七郎、顧問正二位勳一等伯爵香川敬三、御用掛圖書頭理學博士山口鋭之勛

大正四年

大正天皇御即位大禮

大正天皇の御即位式は、大正三年秋冬の間に於て行はせらるべき旨、曩に大正二年一月九日公布あり、次で大禮準備委員會規則が御治定され、委員長以下の任命があり。二年七月三十日諒闇明けとなつたので、三年の秋には即位禮及び大嘗祭を行はせ給ふべく、二年十一月二十二日大禮使を置かれ、翌三年一月十七日を以て即位禮は同年十一月十日、大嘗祭は同月十三日に行ふ事に定めさせ給ひ、次で二年二月五日に齋田點定の儀を行はせられた。然るに不幸にして大正三年四月十一日、昭憲皇太后の崩御あらせられたるに依りて、世は再び諒闇となりたるを以て、大禮使を廢せられ、總ての準備も中止せられた。然も曩に定められたる齋田は其儘存置せらるゝ事となつた。次で三年四月十二日諒闇の期盡くるに及び再び大禮使を置かせられ、同年四月十九日に至り、勅令を以て即位禮は大正四年十一月十日に、大嘗祭は同月十四日を以て行はせらるゝ旨、其期日を發布せられた。

〔齋田點定の儀〕 曩に神殿の前庭に齋場を設備せられて齋田點定の儀を行はせられて左の如く勅定せられた。

悠紀齋田　は愛知縣碧海郡六美村大字中島ノ上、丸ノ内早川定之助所有の田

主基齋田　は香川縣綾歌郡山田村大字山田岩瀬辰三郎所有の田

因に、齋田は、大嘗祭を行はせらるゝ際に、悠紀、主基兩殿で天皇陛下が御親ら供進せられる神饌並に白酒、黑酒の神酒を御料に充てさせられるところの新穀を作る爲めの御田である。即ち此の御田を指定されるのが齋田點定である。

〔齋田拔穗式〕 主基齋田に於ては大正五年九月十七日大祓式を行ひ、同十八日拔穗使河鰭掌典を始め香川縣知事若林氏、掌典補、雜色並に縣廳高等官、大田主參列の上齋殿の裝飾を行ひ、數臺の神饌を供へられ、河鰭拔穗使は恭しく祝詞を奉讀し、撤饌後大田主は雜色十名を從へ齋田に入り稻穗を拔き取り拔穗使の檢分あり之を齋殿に納む、又悠紀の齋田に於ては同月十九日に大祓式を擧行、同二十日齋田拔穗式を大田主の齋田に於て行ふた。此日拔穗使北鄕掌典を初め松井知事掌典補雜色並に大田主參列の上主基齋田と同樣の儀式を行ふた。

〔齋田供納米〕 は十一月六日悠紀齋田大田主先導の下に五箇の唐櫃の中に納めらたる一石の米を二基の長机に載せ午後二時大禮使一木檢査官の下に納入せられた。又主基齋田の供納米一石も同樣の方式にて十一月七日同じく一石の米を五箇の唐櫃に納めたるを納入せられ、兩田よりの供納米は何れも清水式精米機敷島精米機にて精製せられた。又庭積机代物として供進せらるゝ各地よりの献穀は京都大禮使迄何れも納入濟となつた。是れより先、各地に於ける献穀田にても夫々机代物積物の祭式が行はれたのである。

〔大禮使と大禮費〕 大禮使の官制は曩に大正二年十一月二十二日勅令を以て發布せられ、其の大禮使任命は大正三年四月十二日左の如く決定された。

大禮使總裁大勳位功二級伏見宮貞愛親王、大禮使長官公爵鷹司熙通、大禮使御用掛(四名)男爵細川潤次郎、同子爵伊東巳代治、同子爵江木翼、同子爵石原健三、典儀部長伯爵戸田氏共、典儀部次長公爵伊藤博邦、調度部長馬場三郎、造營部長片山東熊、車馬部長藤波言忠、鐵道部長古川阪次郎、主計部長濱口雄幸、長官々房主任(四名)牛塚虎太郎、同馬場鉄一、同吉田平吾

議會幹事　三名)牛塚虎太郎、天岡直嘉、同近藤久敬、同同男爵小原驗吉、評

大禮費は三百九十貳萬八千四百二十二圓で此の内譯は左の如くであるが、此外に御内帑金も御支出になりたれば、是等を合する時は八百萬圓に上つたと言ふ事である。

大禮費内譯

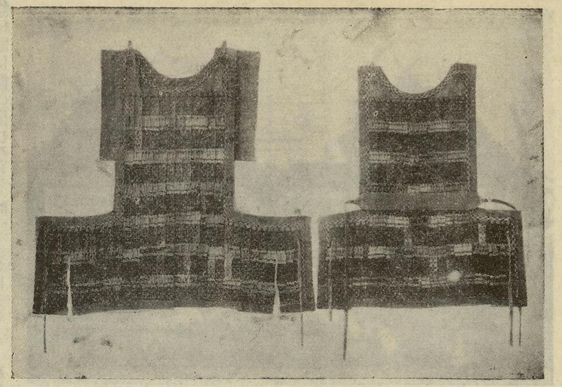
祭典費　六四、七八一圓、工營費　一、二五七、〇三四圓、調度費　一、三七五、〇三三圓、饗宴費　一二二、八〇〇圓、接待費　三一一、一二二圓、諸給費　六九八、六五三圓

〔諸儀式御日取と大禮擧行地〕 御大禮御擧行の期は左の通り決定された。

(十一月六日)賢所奉遷京都行幸之儀、(十一月七日)賢所春興殿渡御之儀、(十一月十日)即位禮當日皇靈殿神殿並に官國幣社に勅使發遣の儀、(十一月十二日)神宮皇靈殿神殿並に賢所御神樂の儀、(十一月十三日)大嘗祭前一日賢所大前の儀、即位禮當日紫宸殿の儀、(十一月十一日)即位禮後一日賢所御神樂の儀、(十一月十四日)大嘗祭當日神宮に奉幣の儀、大嘗祭當日の皇靈殿神殿に奉幣の儀、大嘗祭當日賢所大御饌供進の儀、悠紀殿供饌の儀、(十一月十六日)即位禮及大嘗祭後大饗第一日の儀、(十一月十七日)即位禮及大嘗祭後大饗第二日の儀、即位禮及大嘗祭後大饗夜宴の儀、(十一月二十一日)神宮に親謁の儀(内宮)、(十一月廿四日)神武天皇山陵に親謁の儀、(外宮)、(十一月二十一日)神皇山陵、仁孝天皇山陵、光格天皇山陵に親謁の儀、(十一月廿七日)東京に還幸の儀、(十一月廿五日)明治天皇山陵に親謁の儀、(十一月廿六日)孝明天皇山陵に親謁の儀、(十一月廿八日)賢所溫明殿に還御の儀、(十一月廿九日)東京還幸後賢所御神樂の儀、(十一月三十日)還幸後皇靈殿神殿に親謁の儀、(十二月二日)特別大觀兵式、(十二月四日)特別大觀艦式、(十二月九日)東京府奉祝會

〔大禮本儀〕 賢所移御之儀、大正天皇には十一月六日曩古の御盛典を行はせらるべく京都に向はせらる皆宮中にては午前三時齋戒沐浴せる數名の掌典は大奥の溫明殿を裝飾し、同三時半大禮使參與官渡邊地方局長、田所普通學務局長、蜂須賀式部官の三名は大禮服にて岩倉掌典長、九條掌典次長、北鄕、園池、中川、佐伯、神谷、堤の各掌侍並に多忠孝以下九名の樂官は、衣冠單、九名の掌典補は布衣

單にて賢所移御之儀を奉仕すべく着床す、軈て、奏樂中を、北鄕、園池の二掌侍は謹み畏み進みて靜肅に御扉を開き終れば、九條掌典次長以下數名の掌典、山海の御饌を供し、次に岩倉掌典長は莊重なる口調を以て祝詞を奏し、更に天皇陛下より差遣せられたる日根野侍從は衣冠單にて御代拜あり、又靑山御所なる皇后陛下より御差遣の東久世皇后宮主事衣冠單にて御代拜あり、之れにて神饌を撤す、是より御羽車に移し參らすれば、十六名の八瀨童子は畏る〳〵御羽車を昇ぎ奉り、指揮官の白き采配を合圖に宮城正門近く進まる。之れより先、大正天皇には早旦御身を淸めさせられ、賢所渡御の儀を行はせらるゝ間、最も嚴肅に控へさせられ、時移りて大勳位の正裝にて御車寄に出御あり、鷹司侍從長扈從し奉り、原侍從御劒を、大炊御門侍從は御璽を錦の袋に納めて捧持し、千里門の彼方に徐行し來れる賢所御羽車を望ませられ、最敬禮を行はせ給へば、居並ぶ群臣等も一齊に最敬禮を爲す。皇太子殿下並に兩皇子殿下には此日午前五時三十分それ〴〵陛下に御對面あり、賢所御羽車及び鳳車に最敬禮を遊ばされ、鹵簿の全く宮城正門を出でさせ給ふまで御見送りになり午前六時陛下には主馬寮よりの六頭曳特別儀裝鳳車に乘御、鷹司侍從長御陪乘申上げ、鹵簿肅々と進御あらせられ、二重橋より馬場先門を左に東京停車場へ御着同七時京都へ向け御發車あらせられ、同日は名古屋離宮に御一泊翌七日午前九時五十分名古屋停車場御發車、同日午後一時五十五分京都停車場御著、直に京都皇居に移らせられ、午後三時二十分賢所を奉じて建禮門より入御あらせられ常御殿に入御、賢所は建禮門より直ちに春興殿階下に進御あらせられた。春興殿は掌典裝飾を奉仕し道家、岡、齋藤の三大禮使事務官大禮服にて着床、九條掌典次長以下各掌典、掌典補は何れも衣冠單にて八瀨童子の手より春興殿內に賢所を渡御し奉り神饌を供し、岩倉掌典長祝詞を奏し、終りて天皇陛下御代拜日根野侍從の禮拜に次で皇后陛下御代拜東久世皇后宮主事の拜禮ありて神饌を撤し、玆に滯りなく賢所渡御の儀を終らせられた。



大禮威儀本位者用の掛甲（カケヨロヒ）

〔卽位大禮紫宸殿の御儀〕十一月十日午後一時三十分威儀の人々は紫宸殿の殿上殿下それ〴〵の本位に就く。三時十分に至るや紫宸殿上の東南隅に在りし慈光寺式部官の口より警蹕は傳へられ、其聲を受けて西北隅なる蜂須賀式部官更に聲高に警蹕を殿下の諸員に傳ふれば、天皇陛下には黃櫨染の御袍を召させられて、午後三時十六分を以て高御座の背後北階より靜々と壇上に昇御あらせられる。同三時十九分、鉦聲を合圖に諸員最敬禮中に、陛下には玉音朗かに左の勅語を下し給ふ。

勅語

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ惟神ノ寶祚ヲ踐ミ爰ニ卽位ノ禮ヲ行ヒ普ク爾臣民ニ誥ク

朕惟フニ皇宗國ヲ肇メ基ヲ建テ列聖統ヲ紹キ裕ヲ垂レ天壤無窮ノ神勅ニ依リテ萬世一系ノ帝位ヲ傳ヘ神器ヲ奉シテ八洲ニ臨ミ皇化ヲ宣ヘテ蒼生ヲ撫スル則チ君臣ニシテ情ハ猶ホ父子ノコトク以テ萬邦無比ノ國體ヲ成セリ

皇考維新ノ盛運ヲ啓キ開國ノ宏謨ヲ定メ祖訓ヲ紹述シテ不磨ノ大典ヲ布キ皇圖ヲ恢弘シテ曠古ノ偉業ヲ樹ツ聖德四表ニ光被シ仁澤遐阪ニ霑洽ス

朕今丕績ヲ纘キ遺範ニ遵ヒ內ハ邦基ヲ固クシテ永ク磐石ノ安ヲ圖リ外ハ國交ヲ敦クシテ共ニ和平ノ慶ニ賴ラムトス朕カ祖宗ニ負フ所極メテ重シ祖宗ノ神靈照鑑上ニ在リ朕夙夜兢業天職ヲ全クセムコトヲ期ス朕ハ爾臣民ノ忠誠其ノ分ヲ守リ勵精其ノ業ニ從ヒ以テ皇運ヲ扶翼スルコトヲ知ル庶幾クハ心ヲ同クシ力ヲ戮セ倍國光ヲ顯揚セムコトヲ爾臣民其レ克ク朕カ意ヲ體セヨ

同三時二十九分大隈總理大臣は南階に歩を進め鞠躬如として南榮の下に直立し謹み畏みて左の壽詞を奏す

壽詞

臣重信謹みて言す伏して以みるに

陛下萬世一系の寶祚を踐み乾綱を攬りて坤維を總べ玆に天津高御座に昇御し卽位の大禮を行ひ給ふ遠邇瞻仰し億兆抃舞す　臣重信誠惶誠喜頓首頓首伏て惟みるに

皇祖無窮の神勅を皇孫に錫ひて八洲に君臨せしめ三種の　神器を親授して五部の神を臣事せしめ給ふ萬世不易の皇基確然として奚に定まる　皇宗英武聖明

皇祖授國の宸意を體し天業を恢弘せむとし皇師を帥ゐて中州を平定し皇位に卽きて萬機を親裁し大に經綸を行ひ洪範を後聖に貽し給ふ而して皇孫に奉事せし諸部の子孫亦咸先志を繼きて皇謨を翼贊す億載一統の皇業蔚爾として維れ崇し

先帝登極の初め復古の廟謨を定めて維新の皇圖を啓き開國の鴻猷を宣べて萬邦の善長を採り藩封の舊制を廢して一途の治化を施し不磨の大典を布きて立憲の政揆を明にし兵制を整定して陵海の戎備を嚴整し文敎を闡敷して黎元の智德を啓養し產業を殖興して厚生の

道を擴め制度を釐革して庶政の規を宏にし給ふ是に於て乎國家の綱紀廓如として光張し邦運の旺盛駸々として止まず

陛下大統を承け懿績を纘き給ひ

皇祖　皇宗聳　列聖の宏謨に遵ひ丕基を鞏固にし德光を宣揚して天職を全くせんとし霄衣旰食聖衷を勞し給ふ今大禮の吉辰に方り明詔を下して肇國の大本の申明し臣子の恒道を提誨し給ふ臣等感激已む無し伏して見みるに

陛下仁孝恭儉の天資を以て至隆の治を圖り給ふ

皇祖　皇宗聳　列聖の神佑

陛下の聖躬に在り　皇業愈々昌にして德澤益々浹く頌音四海に洋溢せむ臣等夙夜勤勉力を戮せ心を固くし忠藎の節を勵まし報效の誠を竭し以て聖旨に答へ奉らむことを誓ふ臣等幸に盛儀に班列し瑞雲の鳳殿を繞り仁風の錦幢を颺すを望みて聳慶躍悅の至に任ふる無し臣重信　帝國臣民に代り恭しく大禮を贊し千萬歲の壽を上つる　臣重信誠惶誠喜頓首頓首謹みて言す

大正四年十一月十日

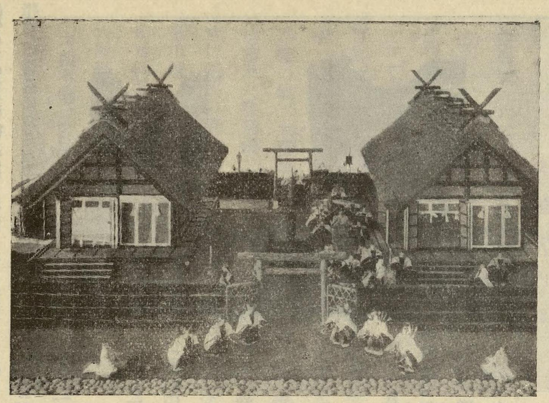
内閣總理大臣正二位勳一等伯爵　臣　大　隈　重　信

終りて再び南階を下り兩萬歲旛の中央に立ち一聲高く「萬歲」と唱ふれば、參列せる三千の諸員は之に和して萬歲を唱へ、三度萬歲を和唱す。時に午後三時三十分、此時豫て期したる如く京都洛中は勿論全國に渉り、砲聲と警笛と鐘聲と一時に起り、之を合圖に市街の電車は其駛走を駐め、道行く往來の人々も其歩を止め、萬民等と萬歲を奉唱して祝意を表した。斯て大隈總理大臣は南庭を退き西階に復したるが三時四十分、侍從の發する警蹕の裡に諸員最敬禮中に、天皇陛下には龍顏麗はしく入御遊ばされ、三時四十二分打出す鉦鼓三擊に各員退下、御儀式は全く終りを告げられた、實に三時四十五分であつた。

〔賢所神樂の儀〕　翌十一日午後三時三十分より御即位の御終了ありしを謝して神慮を慰め給ふべく賢所神樂の儀を行はせられた。即ち午後四時第二朝集所の諸員百四十二人、奉興殿屬兩幄舍に參進し續いて第一朝集所の諸員百四十八人全く其席に著くや伶人は神樂歌を奏し、掌典は恭しく御扉を開き神饌を供進し、岩倉掌典長は諸員起立の中に祝詞を奏し、次で皇后陛下御代拜朝香宮允子内親王殿下には各宮殿下と共に四時三十三分御着床、次で午後五時、天皇陛下には黄櫨染の御袍の御束帶いと〻神々しく田内式部官の前行にて、鷹司侍從長を初め大山大臣等の供奉にて出御、内陣の御座に着御、陛下には恭しく御拜あらせられ次で皇后陛下御代拜、各皇族殿下の御禮拜あり。斯て夜半十二時式は全く御終了と共に、天皇陛下には入御あらせられた。

〔大嘗祭〕　天皇陛下には十一月十四日御代の初めに新たに穫れる穀物をもて御饌神酒を供へさせられ、皇祖皇宗天神地祇を親しく祭らせ給ふ大嘗祭の御儀を執り行はせられた。是より先、大嘗祭に附帶する諸儀式が相次で行はれた。即ち御禊の儀（十一月十一日午後一時小御所に於て）、大祓の儀（同日建禮門内に舗設の大祓所に於て）、神宮皇靈殿、神殿並に官國幣勅使發遣の儀（十二日清涼殿に於て）、大嘗祭前一日鎭魂の儀（十三日午後六時より小御所に於て）、賢所御饌供進の儀（十四日嚴肅に行はせられた）、神宮奉幣の儀（伊勢神宮奉幣の儀十日皇太神宮に於て）、夫々行はせられた。

〔大嘗祭、本儀悠紀殿供饌の儀〕　十一月十四日夕より曉にかけて我國固有の古典に則りたる森嚴崇高なる大嘗祭を行はせらる。先づ悠紀殿供饌の儀は午後六時より行はせらる、朝集所に參集の諸員は大禮使高等官の先導にて左右の幄舍に入り各々其本位に着く。此時五分に衣冠束帶に威儀を正せる岩倉掌典長は本殿に參進の上、恭しく祝詞を奏し奉る。軈て天皇陛下には戸田式部長官、波多野官相の前行にて左右各々脂燭を乘り廻立殿より長廊下を肅々と進御あり、直徑四尺の御菅蓋を後より翳し參せ、海江田、落合の兩侍從は垂れたる菅蓋の白絹の緒を左右より持ち、東園侍從は恭しく御裾を捧持し、靜々と玉歩を進ませらる、前なる侍從は簀薦を延べ後なる侍從は之を卷き行く。鷹司、内山初め各侍從御後に候し、各宮殿下親王供奉し、肅々として本殿に著御、外陣御座に著御あり、稻葉大禮使官は國栖の古風を奉奏すべく樂官十名を從へて本殿兩庭の本位つく、悠紀地方長官たる松井知事も黑袍の束帶にて本位につく、玆に樂官は國栖の古風を奏し、續いて悠紀地方の風俗歌を奏す。此時愈よ神饌行立の御儀を行はせらる。供饌種々に白酒黑酒をも供へさせられ、又各地よりの献穀は庭積の机代物として供へらる、斯て陛下には畏くも行立せられたる神饌を順次親ら供へさせられ、御告文を奏せらる。親饌終れば陛下には内陣の御座に復らせ給ふて御直會を聞召させ給ふた是にて森嚴崇高なる悠紀殿供饌の御儀は了らせられ、午後十時二十分廻立殿に還御あらせられた。



悠紀殿及び主基殿（模型）

大嘗祭の諸歌（其一）

稲春歌

悠紀地方（六美村）

八束穂のたり穂の稲を刈り積みて
春くや村人むつみあひつつ

主基地方（山田村）

玉ももしさぬきの山田あらた代の
秋のたり穂の稲や春くらむ

大嘗祭の諸歌（其二）

國栖の古風

かしのふに、よくすをつくり、よくすに
かみし、おほみき、うまらに、きこしも
ち、おせまろが
（此歌の意は、かしのふと云ふ土地
にてよくすをつくりかもせしおほみ
きを、うまくたべよわが父、といふ
のである）

大嘗祭の諸歌（其三）

風俗歌

悠紀地方（音聞山）

君か代を千代もと呼はふまつかせの音も
絶えせぬ音聞の山

主基地方（皷ヶ岡）

雲井まで高く響かむ里人の皷ヶ岡に千代
呼はふ聲

大嘗宮の供饌

鯛（目の下一尺）	三尾
鯉	三尾
鱸	三尾
鮒（目の下八寸）	十二尾
雉（紅白）	十本
昆布	十枚
和布	十五把
人參	五本
若布	十五本
葉生薑	十五本
千柿	百五十箇
勝栗	三升五合
作菓（紅葉形紅白）	四十箇
同（山路菊紅白押物）	三十箇
同（寒菊押物）	四十箇
花桔梗（紅白）	三十箇

〔主基殿供饌の儀〕 主基殿供饌の儀は悠紀殿のそれと御同様であるが、唯だ時刻の相違がある。即ち十一月十五日午前一時三十分より儀式は行はれる。十五日午前一時八分衛門及び威儀參進同一時十五分參列諸員參進着床、同二時各宮各妃殿下御着床、同時に稲春歌を奏し五分間にて終る。次で塚本大禮使事務官、國栖の樂官を率ゐて參進同二時九分天皇陛下廻立殿に渡御、同二時十二分岩倉掌典長祝詞を奏す、同二時二十分天皇陛下廻立殿より主基殿へ出御、同二時三十五分本殿に着御、同二時四十九分國栖の古風並に主基の風俗歌を奉奏し、同二時五十分諸員一齊に禮拜す。同五十四分神饌行立の儀あり、同四時三十分天皇陛下御拜御告文を奏し給ふ。同五時十四分神饌を撤し、同五時二十四分廻立殿に還御同五時三十分諸員退下し、同六時天皇陛下頓宮御出門、同六時三分皇宮に入御あらせられた。

天皇陛下が十四日より十五日に亘りて大嘗宮悠紀、主基の兩殿大前に於て奏させ給ひし御告文の大體は左記の如くと拜承す。

御告文

伊勢の五十鈴の川上に在ます天照大神天神地祇の諸の神達に申して白さく我諸神のしろき護りに依りて國の中平らかに稔穀豐かにして高き卑きを覆ひ諸の民を救はんがまく惡しき事犯し來る事ならん又高き山低き谷處々の名を記るしてまじない祭らんものみな悉くこけし亡さん事天神地祇の厚き護りを被りて致す可きものなり。

〔大禮後大饗宴之儀〕 大禮後儀として大嘗後一日即ち十一月十五日午後二時より鎭魂の儀（前一日鎭魂の式と同様）を執行せられ、同四時終了した。次で大禮後の大饗宴第一日の儀は豐樂殿にて行はるゝ筈なりしも御都合により二條離宮に於て行はるゝ事となつた。即ち十一月十六日正午より大宴は開かれ、參列有資格者參列の外、十八ケ國の締盟諸外國特派使節も參列した。參集の諸員四十間四面の饗宴場に溢るゝ許りである。此時天皇陛下には君ケ代の奏樂裡に出御まし〳〵玉座の左右は悠紀主基地方風俗歌の兩屏風にて五彩あでやかに飾られてある。供奉員各本位につくや、玉音いとも朗らかに左の勅語を賜る。

勅語

朕大禮ノ典儀ヲ擧行シ奚ニ饗宴ヲ開キ各國代表者並ニ諸大臣等ト歡ヲ共ニスルコトヲ得ルハ朕ノ大夕喜悅スル所ナリ

茲ニ友邦ノ君主及大統領ノ健康ヲ祝シ併セテ交際ノ益々親密ナラムコトヲ望ム

大隈首相は勅語を拜受すれば參列諸員を代表して左の奉對文を奉る

首相奉對文

大禮の盛儀を擧行せらるゝに方り群臣を召して大饗の御宴を開かせられ優渥なる勅語を賜ふ天恩涯りなく臣等感激の至りに堪へず臣重信群臣に代り恭しく寵眷の厚きを拜謝し敬て寶祚の無窮を祝し聖壽の無疆を祈り奉る

續いて長老順に依り外國使節を代表して露國大使マレフスキー・マレウイツチ氏は左の如く此式を壽き奉つた。

露大使奉對文

外臣は茲に列席せる外國代表者の名に於て外交團に賜はりたる優渥なる勅語に對し深甚なる感謝を奉呈するの光榮を有す

惟ふに帝國友邦の君主及び元首に於て該勅語に對し深く滿足せらるべきは疑ひを容れざる所なり陛下が皇祚を踐ませらるゝが爲め大典を擧行せらるゝに方り外交團は謹て茲に至敬なる祝詞を陳奏し併せて衷心より陛下、皇后陛下、親王、內親王、王、女王各殿下の福祉健康を祈る

外交團は帝國の利益帝國民の幸福並に帝國と爰に代表せらるゝ各國との間に存する親好關係の爲陛下御宇の永く隆盛多祉ならむことを切に冀ふ

次で原侍從御前に進みて白酒黑酒を供し奉れば戸田式部長官御前に罷り出で悠紀主基兩地方の風俗舞を行ふ。暫くあつて五節の舞姫は兩の太鼓の峙てる間より南の階級を靜々と登り來りて、五節舞の奉奏が行はれる。此時の舞姫は左の五名である。

清閑寺歌子　高倉則子　石野和子　萩原種子　松橋幸子

右の奏樂終つて參列の諸員は陛下より各自に御挿華を賜はる。

斯くて陛下には諸員起立、君が代奏樂裡に御退出遊ばされ、午後二時二條城より皇居に入御あらせられた。

〔大禮後大饗宴第二日の儀〕　大饗宴第二日の儀は十一月十七日午後六時より使節及大勳位、親任官、貴衆兩院議長、供奉勅任官、供奉女官を召させられて、大饗宴を賜ふた。天皇陛下には戸田式部長官、波多野宮相を前行にし、其他應司、內山以下諸司を從へさせられ、午後六時十九分諸員最敬禮中に出御、着座あらせらる。管絃樂は肅々として起る。此樂の指揮を掌るものは雅樂部長芝葛鎭、演奏者は同部の樂師である。其曲目は左の如し。

一、マーチ（式部職作）　二、フランテース（佛）　三、アワードルー（佛）　四、ボンヘールカワツト（佛）　五、ウユルジアー（佛）

〔大饗夜宴の儀〕　二條城に於て行はせられたる大饗夜宴の儀は十七日午後九時よりである。此宴には、賢所大前の儀以來各儀に參列したる大勳位以下の諸員悉皆二千餘名を召させられ午後八時十五分參進用意の合圖にて一同所定の舞樂陪覽場に入る。斯る間に天皇陛下には饗宴場に出御、舞樂殿の玉座に着御あらせらる。九時三十分樂官は萬歲樂（舞人は辻則承、奧好壽、辻英吉、奧好榮）を奏し、引續き太平樂（舞人は多久每、豐時好、芝忠重、岡孝太郎）を奏す。午後十時二十分舞樂終るや陛下は入御あらせられ、諸員休憩所に退下す。十一時十分參進用意の合圖によりて以前の舞樂場に參進す。君ケ代の奏樂裡に陛下御あらせられると、再び君ケ代の奏樂起り次で管絃樂起る。此の指揮官は式部職樂官芝葛鎭、海軍々樂隊瀨戸口藤吉、陸軍々樂隊山本銳三郎であつて曲目は左の如くである。

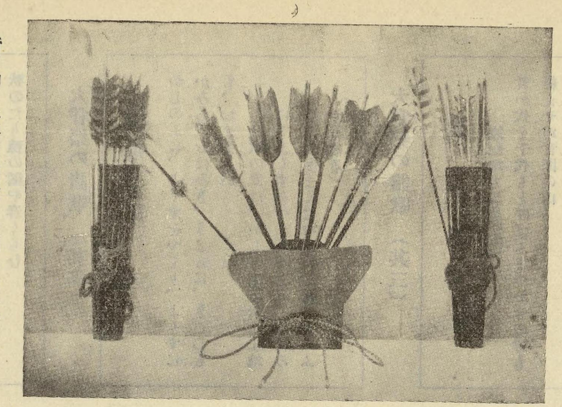
一、マーチ　二、アワツルー　三、ハンチーユ　四、セレクション　五、ウオルシヤ　六、アハーツルー　七、セレクション　八、シユイツト　九、ウエルス　十、ポートアレー　十一、セレクション　十二、マーチ

陛下は十二時二十分諸員起立敬禮中に入御あらせられ十二時四十分皇居に還御あらせらる。

以上を以て大饗夜宴は全く終りを告げたのである。是れより神宮及び山陵親謁の儀を行はせらるのである。

〔神宮親謁の儀〕　天皇陛下には十九日午前八時二十分京都驛御發車午後一時四十五分山田驛御着、伊勢行在所なる神宮司廳に入御、翌二十日には豐受大神宮、二十一日には內宮を御禮拜あり、皇后陛下の御名代北白川宮妃房子內親王殿下御禮拜あらせらる。

〔神武天皇山陵親謁の儀〕　越へて二十四日午前八時三十分天皇陛下には京都皇居御出門、鷹司侍從長御陪乘、伏見總裁宮殿下を初め波多野宮相、內山侍從武官長、大森京都府知事、侍從等供奉、近衛將校儀仗兵、警部御警衛の下に午前九時京都驛御發車、同十一時十五分畝傍驛着車、直ちに神武天皇山陵に親謁あらせられ、同日午後零時四十五分畝傍御發車同三時京都に御還幸あられた。



大典用平胡錄と壺胡錄

翌二十五日午前八時五十分京都皇居御出門同日午前九時京都停車場御發車同九時半桃山停車場御着、直ちに明治天皇山陵に親謁あらせられ、同午前十時四十分桃山停車場御發車、同午前十時五十五分京都停車場御着車にて京都皇居に還御あられた。翌廿六日には孝明、仁孝、光格三天皇の山陵に夫々御親謁あらせられた。

〔東京に還幸の儀〕　天皇陛下には大禮の諸儀を悉く御終了遊ばされ、愈よ同月二十七日京都より東京宮城に還幸あらせらるべく、賢所を奉じて午前九時四十分京都停車場御發車、名古屋離宮御一泊、翌二十八日午後四時三十分、東京停車場に御着車、文武高等官多數、庶民の奉迎を受けさせられる特別公式鹵簿にて肅々と東京宮城に還御あらせられた。

斯て即日賢所溫明殿に還御の儀を行はせられ翌二十九日には溫明殿に於て賢所神樂の儀を行はせられ、續いて三十日を以て皇靈殿、神明殿に親謁の儀を執り行はせられた。

恩赦の詔書

天皇陛下には十一月十日御即位の大典を擧げさせらるゝに方り同日を以て恩赦の詔書を發せられ、同時に減刑、懲戒又は懲罰免除、出納官吏辨償責任免除、陸軍懲罰免除等の勅令並に軍令を公布せられ、當路大臣又之に關する訓令を發する所あつた。恩赦詔書、及び

恩赦執行の範圍は左の如くである。

詔　書

朕大禮ヲ行フニ當リ普ク仁慈ヲ布キ以テ朕カ慶福ヲ頒タムコトヲ念ヒ特ニ有司ニ命シテ恩赦ノ事ヲ行ハシム爾有衆其レ克ク朕カ意ヲ體セヨ

御名御璽

大正四年十一月十日

各大臣　副署

恩赦執行の範圍

一、今回は大赦行はれずして特赦減刑及復權行はる。

二、減刑は勅令を以て一般減刑行はる。

三、減刑の勅令に依れば忠孝の道に背反する罪其他惡質の罪に就ては減刑行はれず。

四、又明治天皇昭憲皇太后の大喪に丁り恩赦を得たる者にして再犯せるものに付ては減刑行はれず。

五、減刑行はれざる惡質の犯罪者と雖も大逆罪を犯したるものを除く外は特別の事情あるときは減刑を行ふことを得るの途を開かる。

六、勅令に依り一般減刑の恩典に浴したる者と雖も特別の事情あるときは更に特赦行はる。

七、特赦の行はるゝ範圍は主として政事犯又は私利私慾を圖るの目的に出でざる犯罪及政事犯に非るも政事上の活動を動機と爲したる犯罪なりと拜聞す。

八、特赦減刑の外、復權行はる、復權は刑の執行を終りたる者に付特別の事情あるものに對して行はるゝなるべし。

九、特赦特定の者に對する減刑及復權に付ては恩赦令の規定の趣旨に據れば犯罪者の性格素行其他の事情を斟酌して行はるゝものと拜聞す。

東京市の奉祝花電車

贈位と敍位敍勳

十一月十日、這回の御大禮を機として故人に對し贈位の御沙汰ありて其の功績を表彰せられた、即ち

贈正一位　故從一位豐臣秀吉、贈從一位　故正二位三條西實隆、贈從一位　故正二位山科言繼（各通）故從二位北畠具行、故從二位德川頼宣、故從二位龜井玆監

贈正二位（各通）　故正四位下源頼義、故正四位下源義家、故日野邦光

贈正三位（各通）　故從四位上藤原保則、外二十四名（以下姓名略）

贈從三位　二十四名。贈正四位、五十六名。贈從四位、百三名。贈正五位、百五十一名。

又大典擧行當日、政治、敎育、實業其他に功勞ありたる諸氏に對し敍位敍勳の御沙汰があつた。（姓名略）

尙ほ大禮參列各國使節の隨員たる露國大使館參事官シエチシ外十六名に對し十二日附を以て敍勳の御沙汰があつた。

御即位大禮紀念スタンプ

養老賑恤

十一月十日御即位式御擧行當日、畏くも養老並に賑恤の儀に付き左の通り總理大臣に對し御沙汰あらせられ、養老の爲め木盃並に酒肴料賑恤の爲め金一百萬圓を御下賜あらせられた。同時に優渥なる左の御沙汰を下し賜はつた。

御沙汰

叡ヲ存シ耄ヲ問フハ人ニ孝ヲ敎フル所以ナリ惠ヲ布キ恩ヲ垂ルハ民ノ乏シキヲ濟フヨリ先ナルハ莫シ玆ニ登極ノ始ニ方リ宗祖ノ遺範ヲ紹述シテ養老賑恤ノ典ヲ行フ其レ有司ニ諭シテ朕カ意ヲ宣布セシメヨ

警視廳告諭第一號

聖上陛下御位の大典を擧げ給ふにあたり、聖恩は中一月六日京都へ行幸あらせられたる日より東京に於ても、其日に準じ電燈をもつて、市街を輝照し、其他の大奉祝會場に於ては、御儀の御式を、謹んで、拜觀せんとする者多しと雖、其數の、多きに、過ぎては、公私の、業務に、妨げを、及ぼすの、虞、なきに、あらざるを、思ふ、故に、今、其、數を、制限して、左の、如く、定む、

一、太皇陽の、御儀に、參列し、奉、祝、の、ことは、其、數、一萬、人、以、内、に、限、る、

二、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

三、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

四、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

五、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

六、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

七、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

八、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

九、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

十、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

十一、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

十二、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

十三、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

十四、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

十五、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

十六、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

十七、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

十八、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

十九、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

二十、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

二十一、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

二十二、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

二十三、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

二十四、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

二十五、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

二十六、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

二十七、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

二十八、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

二十九、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

三十、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

三十一、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

三十二、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること、

三十三、御儀、參列者、は、當日、直ち、に、御用、掛、の、指、圖、に、從、ひ、其、所、に、入、ること

大觀兵式と大觀艦式

十二月二日青山練兵場に於て特別大觀兵式を擧行あらせられた。當日之に參加せる兵團は近衛、第一兩師團及び陸軍各學校教導大隊及第二乃至第十八師團司令部以下三十四箇師團（各兵を通じ軍旗約八十旒參加）よりの代表部隊合計約四萬の精兵にして、伏見元帥宮殿下之れが總指揮官として空前の大分列式が行はれた。尙當日飛行船雄飛號及び十臺の飛行機は翼を連ねて代々木練兵場を出發し、觀兵式擧行中青山原頭上を飛翔し、空中にて分列式を行ふた。

同月四日海軍特別大觀艦式を橫濱港外に於て行はせられた。當日海軍大將片岡七郎男之れが總指揮官に任じた。參加艦艇は左の如くで其數百二十五隻、其總噸數六十萬五千三百八十五噸に上り、實に我建國以來の偉觀であつた。

△御召艦、筑波△供奉艦、常磐、矢矧、滿洲△指揮官乘艦、扶桑△第一艦隊（第一戰隊）攝津、河內、安藝、薩摩△（第二戰隊）比叡金剛、榛名、霧島△（第五戰隊）鞍馬、伊吹、生駒△（第一水雷戰隊）八雲（旗艦）、桂、楓、梅、楠、樫、柏、松、杉、海風、山風、櫻橘、樺、桐△（第三水雷戰隊）春日（旗艦）、潮、子日、若葉、朝風、春風、初雪、時雨、初春、叢雲、夕霧、陽炎、不知火、追風、夕凪、疾風、村雨、浦風△第二艦隊（第二戰隊）鹿島、三笠、敷島、肥前、朝日、周防、相模、石見、富士△（第四戰隊）日進、阿蘇宗谷△（第六戰隊）磐手、出雲、吾妻△（第二水雷戰隊）利根（旗艦）、有明、吹雪、霰、彌生、神風、初霜、如月、響、夕暮、夕立、白露、三日月、白雪、野分、松風、浦波、綾波、磯波、朝霧、薄雲、山彥△（第四水雷戰隊）韓崎、駒橋、第十、第十一、第十二、第十三、第八、第九潛水艇、第六十七號、第六十八號、第七十號、第七十一號、雉、鴻、鷗、白鷹、雁、蒼鷹、鴿、燕△第三艦隊（第七戰隊）津輕、平戶、筑摩、笠置、千歲△（第八戰隊）對島、新高、音羽、最上、（第九戰隊）橋立、大和、武藏、千早、嵯峨、宇治△列外、熊野丸、高崎、若宮、松江。

瀆職事件と內閣改造

七月二十八日衆議院書記官長林田龜太郎は代議士買收に關與したる瀆職罪を以て東京控訴院に召喚され、取調の結果收監さるゝに至つた。此事件に關して代議士中には少からず瀆職嫌疑者現はれて收監を見るに至り、所謂代議士瀆職事件として一時社會の耳目を聳動せしめた。而して此事件に關して法相官邸に於て檢事總長、司法次官等會合の上、內務大臣大浦兼武の瀆職に關する重大事件につき凝議する所あつた。其の結果、翌二十九日大浦內相は瀆職事件の爲め辭表を提出したので、首相大隈重信は之を闕下に捧呈して、其事件の顚末を伏奏したる後、監督不行屆の責任に就て聖斷を仰いだ。翌三十日大隈首相以下各大臣は首相官邸に參集して緊急閣議を開き、選擧干涉及び大臣以下の瀆職問題に關し、內閣總辭職を決し、首相は直ちに閣員全部の辭表を纏めて之を捧呈した。然るに八月に至り大隈首相は聖斷に依り內閣總辭職を撤回し、內閣の一部を改造して留任する事に決し、同月十日親任式擧行された。而して加藤外相、若槻藏相、八代海相は留任に反對して辭職し、立憲同志會は最高幹部を以て大隈內閣を援護することに決した。改造大隈內閣は左の如くである。

內閣總理大臣伯爵大隈重信、海軍大臣海軍大將加藤友三郎、陸軍大臣陸軍中將岡市之助、內務大臣法學博士一木喜德郎、司法大臣尾崎行雄、大藏大臣武富時敏、遞信大臣箕浦勝人、農商務大臣河野廣中、文部大臣法學博士高田早苗、外務大臣男爵石井菊次郎

大正五年

露國大公來朝。首相襲擊さる

五年一月十一日露國ゲオルギー、ミハイロウイツチ大公殿下には軍艦鹿島にて神戶に御入港になり、神戶驛より東京に向はせられ、翌十二日東京驛に御着、天皇陛下には同驛まで御出迎あらせられた。大公殿下には當日御參內の上露國皇帝陛下よりの御親書並に御贈進の露國最高大勳章金剛石滿飾サンタンドレー大綬章を天皇陛下に、同サント、カタリン勳章を皇后陛下に捧呈し、天皇陛下には殿下に、大勳位菊花大綬章を御贈進あらせられ、次で其夜豐明殿に於て御晩餐會を御催しになつた。

同夜大隈首相は宮中に於ける夜宴より、自動車にて早稻田の自邸への歸途、牛込區山吹町通りに差しかゝるや兇漢の爲め、突然爆裂彈二個を投ぜられたるが、幸に何等の微傷だに蒙らず無事に歸邸するを得たのであつた。越へて十八日に至り、爆彈

露國ミハイロウヰツチ大公

を投じたる犯人として下村馬太郎、和田政吉、福田和五郎、鬼倉重次郎の四名は逮捕され、後裁判の結果七月十日東京地方裁判所に於て福田和五郎、下村馬太郎は無期懲役、鬼倉重次郎、和田政吉は懲役十五年、目黒清治、前田九二四郎は同一年（三年間執行猶豫）富田清秋は懲役一年の判決を言渡された。

寺内内閣組織さる

九月に入りて政界の風雲は漸次濃厚を呈し來り、是が爲め同月二十九日山縣公は小田原より、西園寺侯は大磯より各々入京し、翌三十日山縣公は參内して大山内大臣に會見後、拜謁仰せ付られ、政局に就て伏奏する所あつた、之れよりして元老及び官僚系の往復の活動は頻々として忙殺を來たしたる結果、十月三日に至り、大隈首相以下各大臣は首相官邸に參集して閣議を開き、いよ〳〵總辭職を決定したる後、首相は後繼者を加藤高明子に推薦の爲め同子と早稲田の自邸に會見し、翌四日大隈内閣は辭表を捧呈するに至つた。玆に於て同日山縣、大山、松方、西園寺の公侯等は宮中に於て元老會議を開き、寺内伯を内閣後繼者に奏薦する事となり、其の結果内閣組織の大命は伯爵寺内正毅に降つた。斯くして寺内伯は以來組閣に努め、越へて九日いよ〳〵左の顔觸を以て成立したので、同日親任式を擧行された。

内閣總大臣元帥陸軍大將伯爵寺内正毅、内務大臣男爵後藤新平、海軍大臣海軍大將加藤友三郎、陸軍大臣陸軍中將大島健一、外務大臣法學博士子爵本野一郎、司法大臣松室致、文部大臣岡田良平、遞信大臣男爵田健次郎、農商務大臣仲小路廉、大藏大臣勝田主計

同日大隈侯に對して特に前官の禮遇を賜ひ、同時に左の優渥なる御沙汰を賜つた。

卿夙ニ國事ニ盡瘁シテ大政ニ維新ニ參シ贊襄匡輔シテ以テ朕カ躬ニ及ヘリ今請フ所ヲ允シテ閑ニ就キ老ヲ養ハシム卿其レ加餐自愛シテ尙ホ朕カ意ニ稱ハンコトヲ勉メヨ

立太子禮御擧行

大正天皇には先帝明治大帝の生れさせ給ひたる十一月三日を以て、皇太子廸宮裕仁親王殿下の爲め宮中に於て立太子の禮を御擧行あらせられた。此日行はせられたる御式は立儲令御制定後、最初の御儀であつた

此日は賢所を始め、皇靈殿、神殿に御奉告あらせられた。先づ賢所大前に於て寶劍壺切の御劍を親授あらせられ皇太子殿下に左の勅語を賜ひ同時に立太子禮の詔書を宣布あらせられた。

勅語

壺切ノ劍ハ歷朝皇太子ニ傳ヘ以テ朕カ躬ニ迨ヘリ今之ヲ汝ニ傳フ汝其レ之ヲ體セヨ

御宣布詔書

朕祖宗ノ遺範ニ遵ヒ裕仁親王ノ爲ニ立太子ノ禮ヲ行ヒ玆ニ之ヲ宣布ス

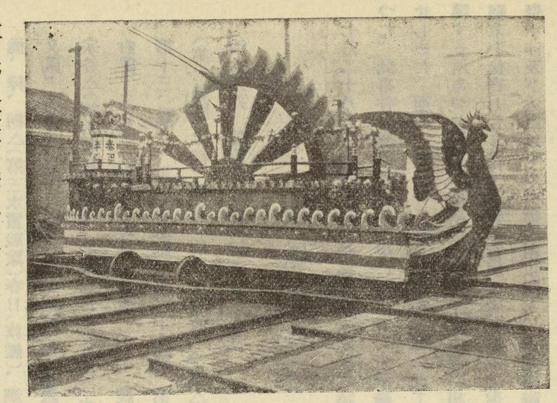
御名御璽

大正五年十一月三日

宮内大臣　男爵　波多野敬直

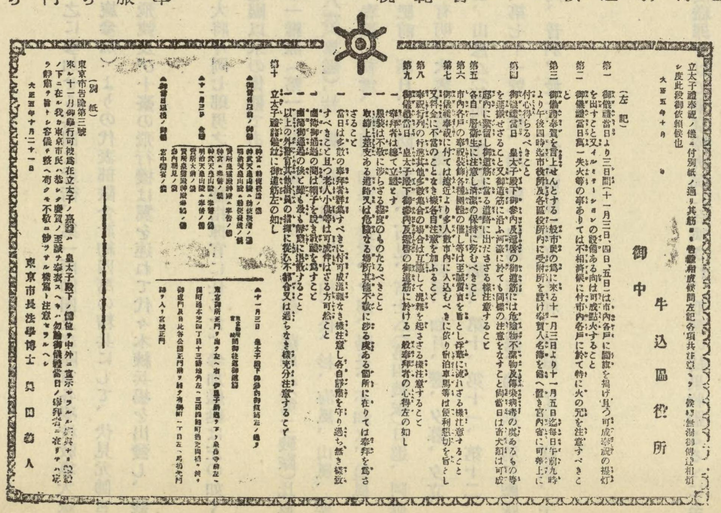
内閣總理大臣　伯爵　寺内正毅

又、此日内宮、外宮、神武天皇御陵、孝明天皇御陵に御使を御差遣奉幣せしめられた。此日皇太子裕仁親王殿下には闕腋袍、空頂黑幘の儀服を召させられ、賢所御拜禮あり、勅語と共に壺切の寶劍を拜受あらせられ、御式を了はせられたる後、引續き朝見の儀に移り、殿下には御參内正殿に於て天皇、皇后兩陛下に御對顏、前記の如く勅語懿旨を拜受あら



大阪市街鐵道會社の奉祝電車

立太子禮奉祝に關する東京市の告諭



立太子禮奉祝ノ儀ヲ行フヲ以テ各項ニ付左ノ如ク達ス

御中牛込區役所

（左記）

第一　御當日ハ三日即チ十一月三日、四日、五日ニハ各戶ニ國旗ヲ掲ケ可成提灯ヲ點ス

第二　御當日ハ一夫火事ノ部アリトモ鳴物ハ一切禁ズ

第三　御當日ハ皇太子殿下ノ御成婚ノ御歌ニ付テハ各區役所ニ受附所ヲ設ケ歌詞ヲ渡ス

第四　皇太子殿下ノ御歌ニ付テハ各戶ニ於テモ同樣ノ御歌ヲ謹唱スルコト

第五　御當日ハ各戶ニ於テ可成ノ御祭典ヲ行フコト

第六　御當日ハ各戶ニ於テ可成ノ御祭典ヲ行フコト

第七　御當日ハ各戶ニ於テ可成ノ御祭典ヲ行フコト

第八　御當日ハ各戶ニ於テ可成ノ御祭典ヲ行フコト

第九　御當日ハ各戶ニ於テ可成ノ御祭典ヲ行フコト

第十　皇太子殿下ノ御歌ニ付テハ各戶ニ於テモ同樣ノ御歌ヲ謹唱スルコト

大正五年十月

立太子禮奉祝ノ儀ニ付テハ各戶ニ於テモ同樣ノ御歌ヲ謹唱スルコト

（別紙）

東京市告諭第三號

來ル十一月御行可被遊花立太子ノ高禮ニ皇太子殿下ノ御位ヲ申外ニ宣示ヤラルヽ儀ニ付テハ當日ノ下ニ在ル我東京市民ハ御ノ儀ヲ奉祭ヘキ參考ヘキ勅語ノ下ニ在ル我東京市民ハ御ノ儀ヲ奉祭ヘキ參考ヘキ勅語ノ御趣旨ヲ謹ミ奉リ祭ヘキ不敬ナキ樣ヲ期スベシ

大正五年十月二十一日

東京市長　佐藤學博士

奥田義人

せられた。越へて同月二十七日正午過ぎより內外臣僚一千餘名を召され、宮中豐明殿に於て御饗宴を催され、翌二十八日も前日に引續きて在京の伯子男各爵、有位華族並びに宮內高等官約五百名を御召あり、二十九日には霞ヶ關離宮に於て皇太子殿下最初の御催しに係る立太子禮御祝宴を催ふされ、親任待遇以上の諸官百數十名を召されられた。

因に、壺切の御劍は東宮歷代相傳の御護身用の御劍であると拜承する。萩野博士の談によると、壺切の御劍は後冷泉帝の康治二年禁裡炎上で、御劍は燒失したが、其は太刀の鞘や飾りが燒けた丈けで、中身は何ともなかつた、そこで元の如く鞘は海草などの蒔繪とし、龍の摺貝を入れ、飾は靑の滑革で、赤地錦の袋に納められた。其後承久亂に紛失した爲め後深草帝の御時は新に鍛へた代の壺切を御授受あらせられたが、次で御劍が發見されて新刀は廢せられた。德川時代に至り、後西院帝の萬治年中に、又もや內裡の火事で燒けたが、中身は依然として別條なく、うの毛の尖でついた程も瑕瑾がないと記錄に傳へられてゐるのであるから、誠に不思議な靈劍と拜察するとの事である。

大正六年

皇后宮奈良女高師へ御歌を賜ふ

奈良女子高等師範學校にては、大正五年四月四日皇后陛下（現皇太后宮）の御臨校遊ばされた際、學風振興の御諚に對し、之を記念せんが爲めに文部省を經て御歌御下賜を乞ひ奉りありたるが、六年一月十六日皇后宮職より文部省に御沙汰あつたので、田所次官直ちに伺候し恭しく左の御歌を拜受し早速奈良女子高等師範學校の野尻校長に急遽出省方を打電したので、野尻校長は直ちに出京出省して恭やしく拜受した。

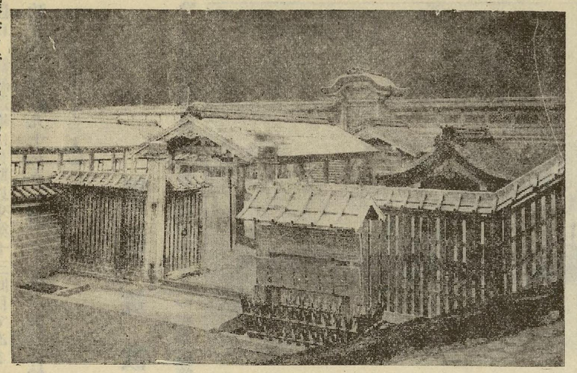
御　歌

春日の山に出づる日の　くもらぬ光り仰きつゝ
かさせや心の花櫻　つよめ誠の敎草
源淸き佐保河の　みきはの柳うちはえて
故を溫ね新しき　道にすゝめや一筋に

御歌は金泥の美麗なる色紙に、いとも長けれど御見事なる御手蹟を以て四句二節に認めさせられ、金緣蒔繪黑塗の御箱に納められたものであつた。同校にては其後右の御歌に曲譜を附して御下賜記念日及び祝日等に奉唱する事となつた。」

孝明天皇五十年御式年祭

大正六年一月三十日は孝明天皇の五十年御式年祭に相當するにつき、宮中皇靈殿にては各皇族方を始め、大勳位、親任官、勅任官參列の上、嚴かに御祭典を行はせられ、天皇陛下には同日午前十時半出御、親しく御拜あらせられた。又孝明天皇の御陵なる京都の泉山御陵に勅使御差遣ありて嚴肅なる山陵御祭典を行はせ給ふた。



（孝明天皇御陵）京都泉山月輪御陵門

不信任案と衆議院解散

六年一月廿三日、休會後の議會は開會されたるが此日憲政會及び國民黨側より內閣不信任案を提出した。而して其署名者は憲政會百九十八名、國民黨二十八名、公正會十五名であつて、不信任案は左の如くである。

決　議

衆議院は現內閣を信任せず。

理　由

現內閣は國民輿論の府たる帝國議會に基礎を有せず擧國一致を標榜して毫も其實なく立憲の正道を稱へて自ら其常軌に戾るのみならず方今世界の變局に處して大政を輔翼するの經綸あることなし是れ本案を提出して處決を促す所以なり。

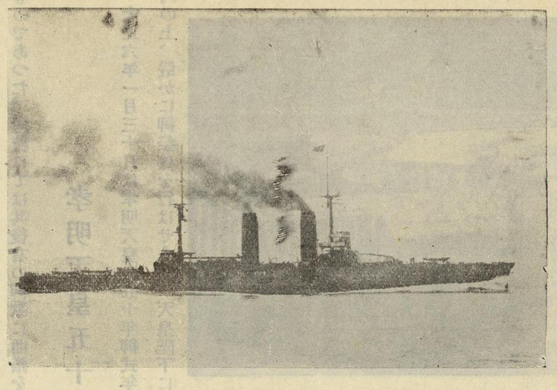
斯くて該內閣不信任案は越へて同月二十五日上程されたるが、討論半ばにして俄然衆議院解散を命ぜられた。越へて三十一日に至り四月十日衆議院議員の總選擧を行ふ旨の詔書が出た。

因に、該總選擧は初期以來第十三回目である。尙此の總選擧の結果、各黨派議員候補者と其落選步合は左の如くであつた。

政友會候補百九十八人(落選二十人)、憲政會候補二百十二人(落選四十四人)、國民黨候補四十三人(落選十九人)、無所屬候補百二十一人(落選四十三人)

軍艦筑波の爆沈

豫て横須賀軍港第二區に碇泊中であつた軍艦筑波は、一月十四日午後三時十五分、同艦の火藥庫が轟然たる大音響を立てゝ爆發し、同時に非常なる震動を爲し爆煙高く揚り、上甲板上の乘組員は此の震動の爲め海中に振り落され、是と同時に艦は大破して午後三時十八分に至り其艦體の後半を現出し、約三十度の傾斜を示して三時半遂に全部沈沒した。當日は日曜日にて六百餘名の乘組員に半數上陸を許したれば、爆發の當時艦内に在りしものは約三百四十名にて、爆發の際海上に刎ね飛ばされ、生存者も悉く海中に漂ひ名狀すべからざる慘狀を呈した。此際港内には軍艦津輕を始め、河内、生駒、榛名、金剛、其他の各軍艦驅逐艇碇泊し居りたるが急を見て何れも直ちに艦載ランチ、カッターを出して救助に着手し、同時に上陸員全部に非常招集を行ひ百方救護に盡した。爆發の原因は日曜日なので火藥庫を開扉する時に非るは勿論なるが、多分先に爆沈せる松島と同樣火藥の變質より生じたる自然爆破にはあらざるかとの說があつた。椿事の當時生存せる各員は、何れも各自の部署に就て沈沒まで必死的奮鬪を繼續した中にも、軍艦の生命と言ふべき軍艦旗の引卸しは最も壯烈を極めた。爆發の起ると同時に副長前田中佐は直に當番の兵卒を召集し四名の卒は平時と異るなく立ちところに銃を捧げて直立不動の敬禮中に軍艦旗は嚴かに引卸されたが、俄かに旗竿より取り去る能はず力を極めて竿から折り取つたのであつた。此の刹那艦は全く沈沒し水兵は悉く海中に溺れた。軍艦旗を持ちたる水兵は一度渦中に吸ひ込まれて其姿を沒したるも次の瞬間に再び波上に現はれて無事救護艇に收容されたのであつた。此の勇敢なる行動を目擊したものは何れも日本海兵の誇りとして感激せざるものはなかつた。



爆沈せる筑波

越へて同月二十一日、筑波の殉難者海軍中尉谷口諶一以下特務士官、準士官、下士卒百五十一名の合同葬儀は横須賀海軍下士卒集會所に於て擧行された。

極東選手權競技大會

第三回極東選手權大競技會は、我が日本が盟主となりて六年五月八日より向ふ五日間東京芝浦埋立地に於て擧行された。當日は名譽會頭大隈重信侯の開會の辭に次で、嘉納治五郎會長の挨拶があり、比島代表者アン、ショー支那代表者張壽春氏の答がありて開會し、日本、比律賓、支那の三國選手は各種の記錄を作り、結果採點比軍は八十點、支軍は四十九點に對し、日軍は百二十點の高點を以て我國の優勝に歸したのであつた。

日米共同宣言

十一月二日北米合衆國華盛頓に於て帝國特派特命全權大使子爵石井菊次郎と合衆國國務卿ロバート、ランシングとの間に重要なる外交文書が交換せられたれ有名なる所謂石井、ランシング外交文書として當時も重要視せられたもの支那の獨立保全、門戸開放、機會均等及び日本の特殊利益を確保したものである。

ワシントンに到着せる石井大使(左)と出迎のランシング氏(中央)

◎第十八輯豫告◎

口絵

◎『神聖なる協力』（シャルル・アタミアン畫）竹田錫吉氏藏

◎『大戰中のポスター』……

玻璃版

◎世界大戰……
◎開戰當時の獨・露・土の示威運動……
◎各交戰國元首……
◎獨逸の中立侵犯……
◎ブラッセルの陷落……
◎獨逸の極東根據地青島……
◎青島攻略（一）……
◎青島攻略（二）……
◎軍艦高千穗の爆沈……
◎青島陷落祝賀會……
◎オステンドの陷落……
◎ヘルゴランド及びドッガーバンクの海戰……
◎獨領南洋諸島の占領……
◎エムデンの最期……
◎英國義勇兵の出兵……
◎東部戰線……
◎大戰中の各國軍司令官……
◎西部戰線・アルゴンヌの戰……
◎ヴエルダンの激戰……
◎ソンム戰線……
◎西部戰線に於ける英軍……
◎日露新協約の成立……
◎露國の革命・ロマノフ王朝の滅亡……
◎獨逸潛航艇の活躍……
◎大戰中の潛航艇戰……
◎ジユットランドの大海戰……

記事

有史以來の大戰爭たりし世界大戰の勃發當時より稿を起し、協商國側と聯合國側との宣戰前後の狀勢、青島獨軍の潰滅、南洋諸島の占領及び東部戰線、コーカサス及びメソポタミヤ戰線に至る大戰前後の戰況を詳述す。

◎大正四年に來朝した米人マースやナイルス等の飛行術は、當時の幼稚なる我飛行界を刺戟した事は非常なものであった。日本の飛行機が、絶えず無風の夜明を選んで居た時に可成の强風を冒して飛行を敢行し、或はナイルスの如きは飛行中操縱桿を手離して地上の觀衆に挨拶して兩手を振り廻して飛行機の安全性を示した事もあった。殊にアート・スミスの如きは黃塵萬丈の大暴風中、三十二米の强風を衝いて數回の宙返りを敢行したのは、眞に見るもの、膽を奪ったものであった。當時宙返へり等は輕業だと云はれたものだが、世界大戰當時此宙返り其他の技術が戰鬪上要用のものである事が判って高等飛行術として改めて紹介される樣になった。

◎大正七年の米騷動も警戒をして居たのではあったが、富山縣の漁夫の女房連が米屋に押し寄せた一寸した事が燎原の火の如く全國に擴がってあの大騷動にならうとは誰しも思ひがけない事であった。一升十錢の外米を買ふ爲に蜿々長蛇の列を作った當時の有樣は今日でこそ昔噺になって居るが中々の騷ぎであった。

◎大正の劈頭には御卽位式を行はせられたが、御式御制定後始めての盛典であった。而して當日の午後三時三十分紫宸殿前にあって大限首相が萬歲三唱の時刻は、電燈の明滅によって全國に傳達され、打ち鳴らす寺々の梵鐘の響、汽笛の聲、萬歲三唱の人聲が互に相交錯して谺の如くに響き返へして、紫宸殿上、殿下に參集の人々の耳朶を打った時には參列者一同期せずして感激の涙に咽んだと云ふ事である。

昭和十年三月二十日印刷納本
昭和十年三月廿五日發行
昭和十一年九月卅日四版發行

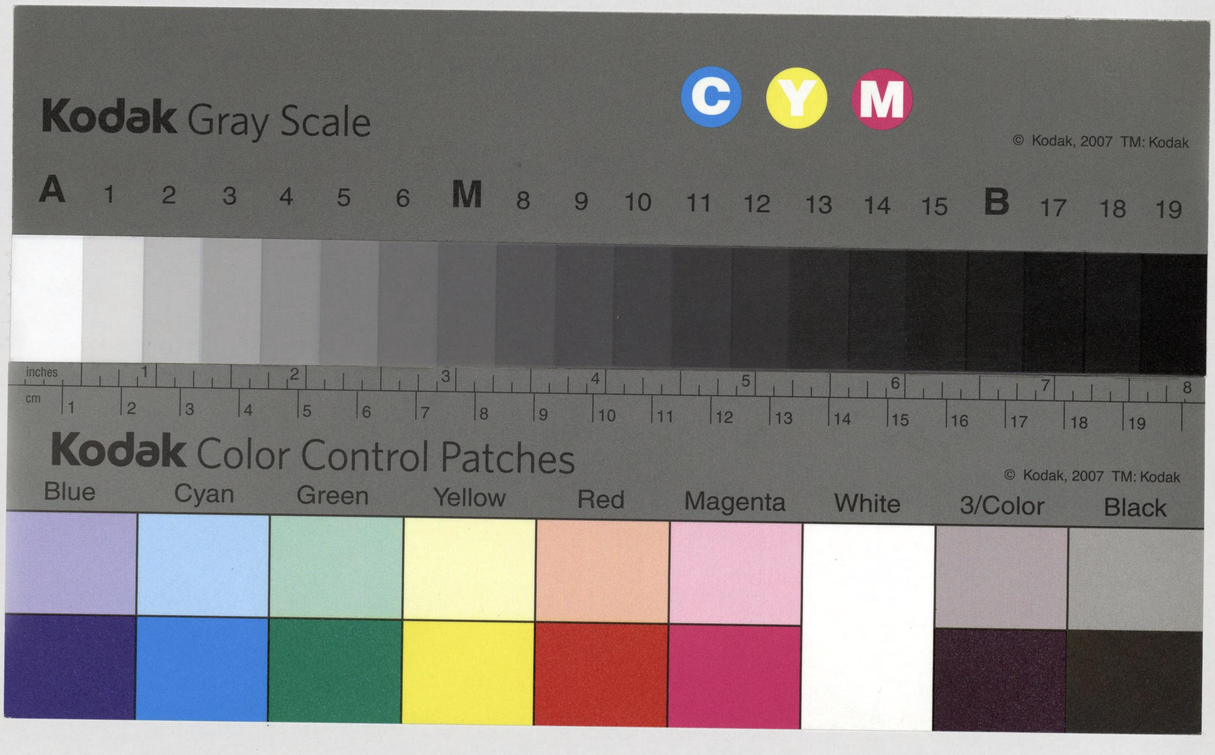
『幕末明治大正』回顧八十年史　第十七輯
定價　金壹圓貳拾錢（朝鮮、滿洲、小笠原、樺太、臺灣及海外は送料別）

編輯兼發行者　東京市京橋區銀座五丁目四番地　大澤米造
印刷所　東京市神田區須田町二丁目十九番地　東洋文化協會印刷所
印刷者　東京市神田區須田町二丁目十九番地　早川一郎
印刷所　東京市小石川區西江戸川町十番地　井口印刷合名會社

不許複寫複製轉載

發行所　東京市京橋區銀座五丁目四番地　東洋文化協會
電話　銀座(57)〇四〇七番
振替口座東京三八三四八番

取扱所
大阪市北區堂島上三丁目三番地　關西一手販賣元　萬伸社　電話北二二八二九番　振替大阪三九八番
大阪市住吉區阿倍野筋五ノ六五　東洋文化協會關西支部
神戸市楠町二丁目二ノ一　博文社　電話元町一八三五番　振替大阪二七六三三番
小倉市京町七丁目一一六番地　太湖社　電話福岡一〇三六番　振替福岡一六八三三番
大連市西公園町八九　東洋文化協會滿洲支社　電話大連二六三四九番　振替大連二六八八番
京城北米倉町九四　大正通信社　電話本局二七〇二番　振替京城七三四五番


Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black